Kodak

i4x50 シリーズスキャナー

TWAIN アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

A-61839_ja

TWAINデータソースの使用

［Scan Validation Tool］の起動 2
［Scan Validation Tool］ダイアログボックス 3
［TWAIN設定］画面 5
TWAINデータソースの使用 6
開始方法 7
新しい設定のショートカットの作成 8
イメージ設定の変更 9
デバイス設定の変更 10
スキャナーメインウィンドウ 11
イメージ設定ウィンドウ 14
　プレビューエリア 15
　［一般］タブ 17
　［サイズ］タブ 19
　［調整］タブ：白黒 22
　［調整］タブ：カラー／グレースケール 24
　［拡張機能］タブ 27
　［検知］タブ 29
詳細イメージセットアップ 32
　［詳細］タブ 32
　［書類タイプの設定］タブ 36
例1：原稿の内容に基づくカラー／
グレースケールまたは白黒イメージの作成 38
例 2：書類の読取り面ごとに複数イメージを作成 40
例 3：書類読取り面ごとに異なる設定を使用 42
デバイス設定ウィンドウ 44
　デバイス - ［一般］タブ 45
　デバイス - ［トランスポート］タブ 47
　デバイス - ［プリンタ］タブ 49
　デバイス - ［重送検知］タブ 54
　デバイス - ［パッチ］タブ 57
［診断］ウィンドウ 58
　診断 - ［一般］タブ 59
　診断 - ［デバッグ］タブ 60
　診断 - ［ログ］タブ 61

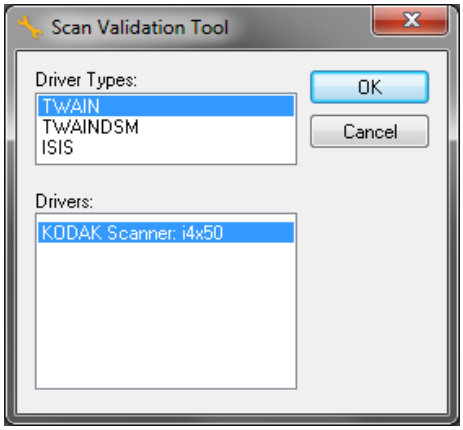
Kodak i4250/i4650/i4850 スキャナーのイメージ処理機能によって高画質のスキャン画像を取得できます。

*イメージ処理*とはそれぞれのイメージに対して、給紙の傾き調整や枠消し、イメージのノイズ除去など、スキャン画像の質を向上させる調整を自動的に行う機能のことです。

本ガイドでは TWAIN データ ソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。同機能は、お使いのスキャンアプリケーション（*Kodak* Capture Pro Softwareなど）のユーザインターフェイスで利用できます。

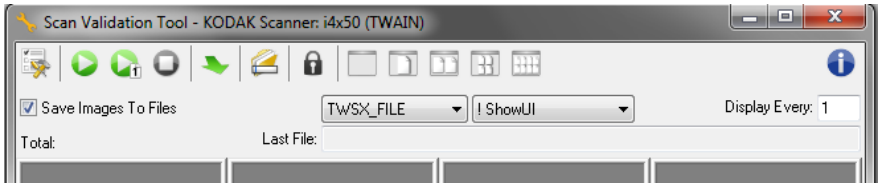
［Scan Validation Tool］の起動

1. **［スタート］> ［プログラム］> ［Kodak］> ［原稿のイメージング］> ［Scan Validation Tool］**を選択します。



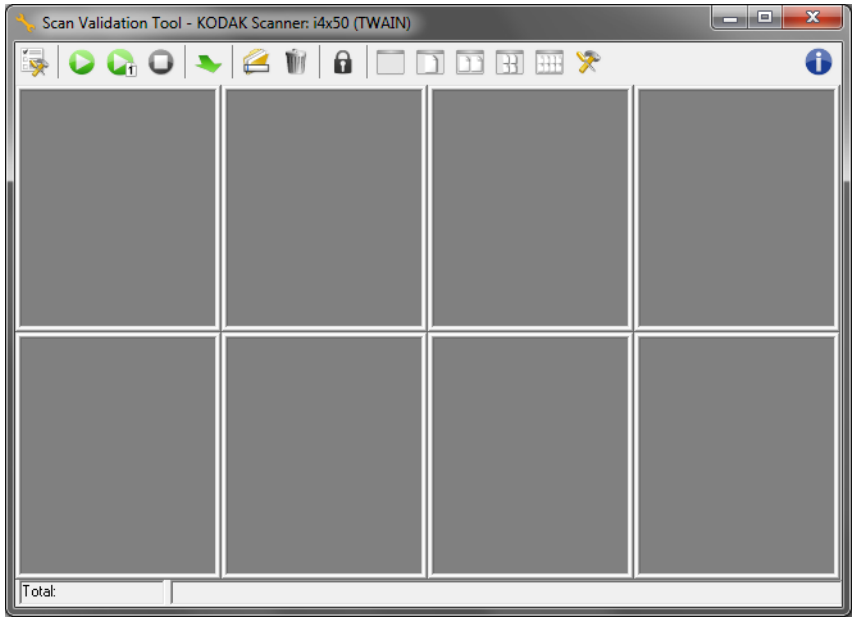
2. ［ドライバの種類］から［**TWAIN**］を選択し、ドライバから［**KODAK Scanner i4x50**］を選択します。

［Scan Validation Tool］ダイアログボックスが表示されます。



[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックアラリスが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Toolを使用すると、TWAIN データソースを使用してスキャナーの機能を検証できます。



注：Scan Validation Tool を製品のスキャンアプリケーションとして使用することはお勧めしません。*Kodak* i4x50スキャナーに対応するフル機能アプリケーションは多数あります。スキャナーに同梱の *Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェア リミテッドエディションのスキャンアプリケーションは、基本的なスキャンに最適です。*スキャンニーズの増加に伴い*、*Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェア リミテッドエディションを *Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェアの完全バージョンにアップグレードできます。

[ツールバー] ボタン



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



変更 — TWAIN データソースと ISIS ドライバを切り替えます。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[**TWAIN 設定画面でファイルを保存**] が選択されている場合のみ使用できます。



削除 — 保存先ファイルを削除します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード（画像なし） — イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。



表示モード（1 画像） — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード（2 画像） — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード（4 画像） — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード（8 画像） — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



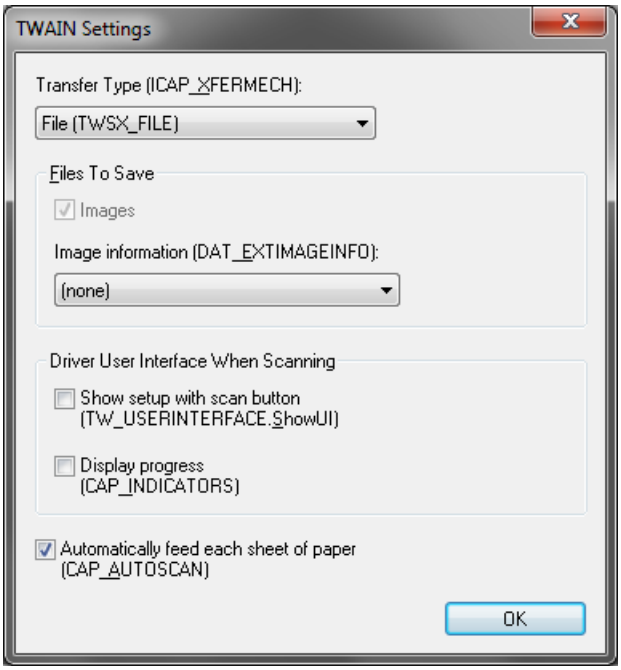
TWAIN 設定 — [TWAIN 設定] 画面を表示します。



バージョン情報 — スキャナーのバージョンおよび著作権情報、また最新ドライバのアップデートをダウンロードするコダックアラリスの Web サイトへのリンクを表示します。

［TWAIN 設定］画面

［TWAIN 設定］アイコンをクリックすると、次の画面が表示されます。



トランスファータイプ (ICAP_XFERMECH) — どの TWAIN トランスファータイプを使用するか選択できます。

- **ファイル (TWSX_FILE)**：ドライバはイメージを直接ファイルに保存します。SVTは表示用のファイルからイメージを読み込みます。
- **メモリ (TWSX_MEMORY)**：ドライバはイメージを SVT で作成したメモリに移します。
- **ネイティブ (TWSX_NATIVE)**：ドライバはイメージの非圧縮ビットマップ表現をドライバが作成したメモリに移し、メモリ所有権が SVT に与えられます。

ファイルを保存

イメージ — 選択すると、スキャンされたイメージは特定の*保存先*プレフィックスが付いた*保存先*ディレクトリに保存されます。

注：これは、*トランスファータイプ - ファイル（TWSX_FILE）の場合は使用できません。*

イメージ情報 (DAT_EXTIMAGEINFO) — 情報は、.xml ファイルに保存されます。ファイルは、特定の*保存先*プレフィックスと関連するイメージ番号が付いた*保存先*ディレクトリに保存されます。

- **（なし）**：保存されるイメージ情報がありません。
- **すべて**：すべてのイメージ情報が保存されます。
- **バーコードデータのみ**：イメージ情報に関連するバーコードのみ保存されます。

スキャン中のドライバのユーザインターフェイス

[スキャン] ボタンでセットアップを表示 (TW_USERINTERFACE.ShowUI) — スキャンが開始されると、TWAIN データソースのメイン画面が表示されます。

注：

- Scan Validation Tool ダイアログボックスで［スキャン］ボタンが選択されるまで、スキャンは開始されません。
- すべてのエラーメッセージと進捗メッセージが表示されます。

進捗状況の表示 (CAP_INDICATORS) — スキャン中のすべてのエラーメッセージと進捗メッセージを表示します。

各用紙を自動的に給紙 (CAP_AUTOSCAN) — スキャン中に、各原稿が自動的にスキャンされます。スキャナーがいつ次の原稿をスキャンするかをユーザーが決めている（［**1 ページスキャン**］ボタンを使用して）場合は自動的にスキャンされません。

OK — 変更を保存して、TWAIN 設定ダイアログボックスを閉じます。

TWAINデータソースの使用

Kodak i4250/i4650/i4850 スキャナーは、TWAIN データソースをご使用のスキャンアプリケーションと合わせて使用することで、様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースはスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、スキャナーメインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの［設定のショートカット］は特定のイメージとデバイス設定のグループです。［設定のショートカット］には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの［設定のショートカット］も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は［設定のショートカット］を選択するだけでスキャンできます。詳細は、このガイドの後半にある「新しい設定のショートカットの作成」および「イメージ設定の変更」を参照してください。

設定方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。*スキャナーメインウィンドウ*から［設定のショートカット］を選択し、**［OK］／［スキャン］**を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの［設定のショートカット］が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは［設定のショートカット］のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ 設定**：スキャナーメインウィンドウの **［設定］**ボタンをクリックすると、メージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの［一般］、［サイズ］、［調整］、［拡張機能］、［検知］タブを使って、イメージ処理パラメータを設定できます。また、**［デバイス］**ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、**［詳細イメージセットアップ］**アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス**設定：［デバイス］ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。**［デバイス］**を選択すると、［一般］、［トランスポート］、［重送］、［パッチ］タブを使用できます（プリンタアクセサリがインストールされている場合は、［プリンタ］タブも使用できます）。デバイス設定ウィンドウでは、［診断］にアクセスすることもできます。

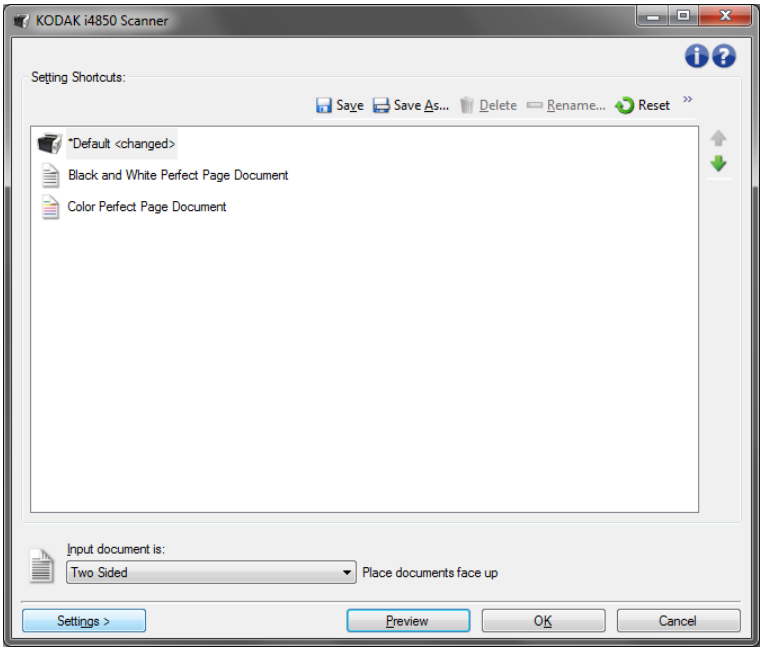
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。スキャナーウィンドウとタブの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注：設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合は、スキャナーメインウィンドウのショートカット名の隣に、<*変更済み*>という斜体の文字が表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

［OK］をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して **［いいえ］**を選択してから、スキャンを行ってください。

新しい設定のショートカットの作成

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。



1. ［設定のショートカット］リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な［設定のショートカット］を選択することを推奨します。
2. *［入力ドキュメントのタイプ］*ドロップダウンリストから、原稿の表面か、裏面、または両面のイメージを作成するかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで**［設定］**を選択します。イメージ設定ウィンドウの［一般］タブが表示されます。
4. ［一般］タブで適切なオプションを選択します。

   注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。

5. スキャナーの入力エレベータに原稿を 1 枚セットします。
6. 選択したオプションによってどのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、**［プレビュー］**をクリックします。

   注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。

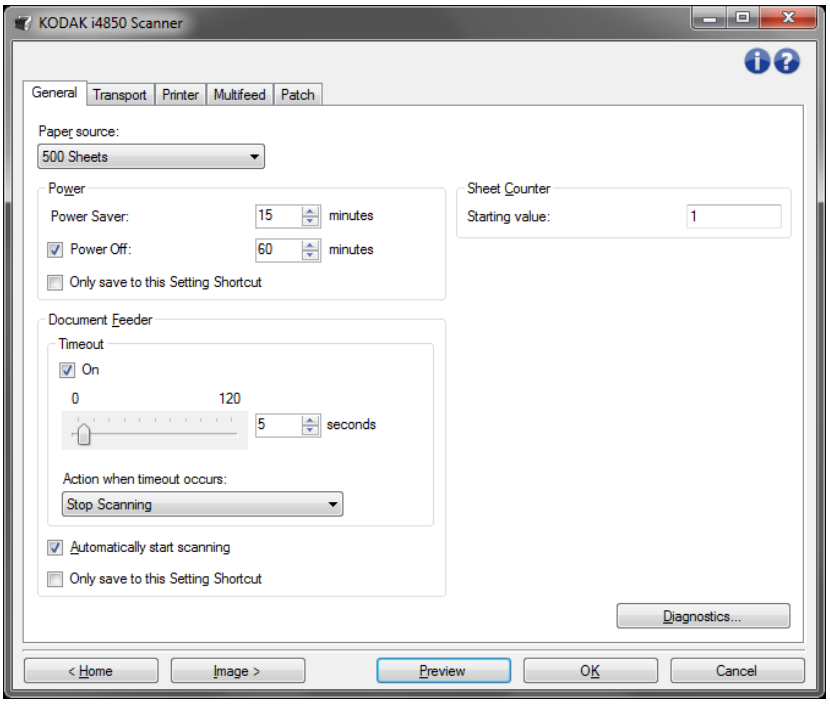
7. イメージ設定ウィンドウの**［デバイス］**を選択して目的のデバイス設定を定義します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. **［ホーム］**をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. **［名前を付けて保存］**を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。
11. 判別しやすい設定の新しいショートカット名を入力して、**［保存］**をクリックします。

イメージ設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウの［設定のショートカット］リストから目的とするイメージ出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、**[入力ドキュメントのタイプ]** を選択します。
3. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

デバイス設定の変更

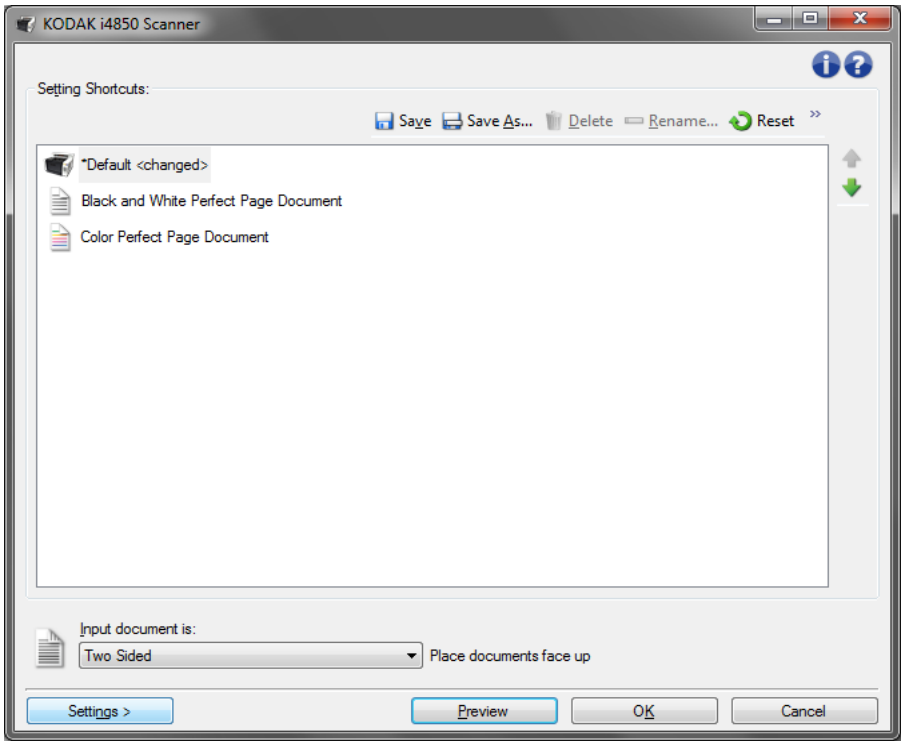
1. スキャナーメインウィンドウの［設定のショートカット］リストから目的とする出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. **［設定］**を選択して、イメージ設定ウィンドウを表示します。
3. **［デバイス］**を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。これらの機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. 使用する各オプションでは、スキャンするときに実行する項目を適切に選択します。
6. 選択が終了したら、**［ホーム］**を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**［保存］**をクリックして選択項目を［設定のショートカット］へ保存します。

スキャナーメインウィンドウ

スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインターフェイスのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、**[OK]** / **[スキャン]** の順に選択するだけでスキャンできます。



[設定のショートカット] — 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。以下のショートカットが用意されています。

- **デフォルト** — スキャナーのデフォルト設定
- **白黒パーフェクトページドキュメント**
- **カラーパーフェクトページドキュメント**

注：[設定のショートカット] を変更してその変更を保存していない場合、[設定のショートカット] に *<変更済み>* というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：**デフォルト <変更済み>*）。

入力ドキュメントのタイプ — 原稿のどちらの面のイメージの情報を出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：入力エレベータではスキャンするドキュメントの面を上にセットしてください。

アイコン

	保存 — 選択した［設定のショートカット］に対して行った変更を保存します。
	名前を付けて保存 —［名前を付けて保存］ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい［設定のショートカット］として保存します。
	削除 — 選択した［設定のショートカット］を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	名前の変更 —［設定のショートカット］の名前を変更します。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	リセット — 選択した［設定のショートカット］への変更で保存していない変更（例：名前が斜体で < *変更済み* > が付いている）を元に戻すことができます。
	復元 —［復元］ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができるようにします。これは、1 つ以上の付属のショートカットが変更または削除されている場合にのみ利用できます。
	インポート — 別の［設定のショートカット］のセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OS の［ファイルを開く］ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。
	エクスポート — 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OS の［名前を付けて保存］ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。
	上に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
	下に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した［設定のショートカット］が変更中（例：名前が斜体で <*変更済み*> が付いている）の場合には使用できません。
- 再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に設定のショートカットを転送する場合：転送したいショートカットがある PC から、**[エクスポート]** を選択し、別の PC から［**インポート**］を選択します。
  - 現在のショートカットセットに［設定のショートカット］を追加する場合：
    1. **インポート**を選択してショートカットセットをロードします。
    2. 新しく［設定のショートカット］を作成します。
    3. ショートカットセットを置き換えるには **エクスポート**を選択して同じ名前で保存する必要があります。

設定 — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにアクセスできます。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK /スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：保存しない場合、変更は引き続き現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。バージョン情報のダイアログボックスでは、最新ドライバのアップデートをダウンロードするコダックアラリスの Web サイトへのリンクも表示します。

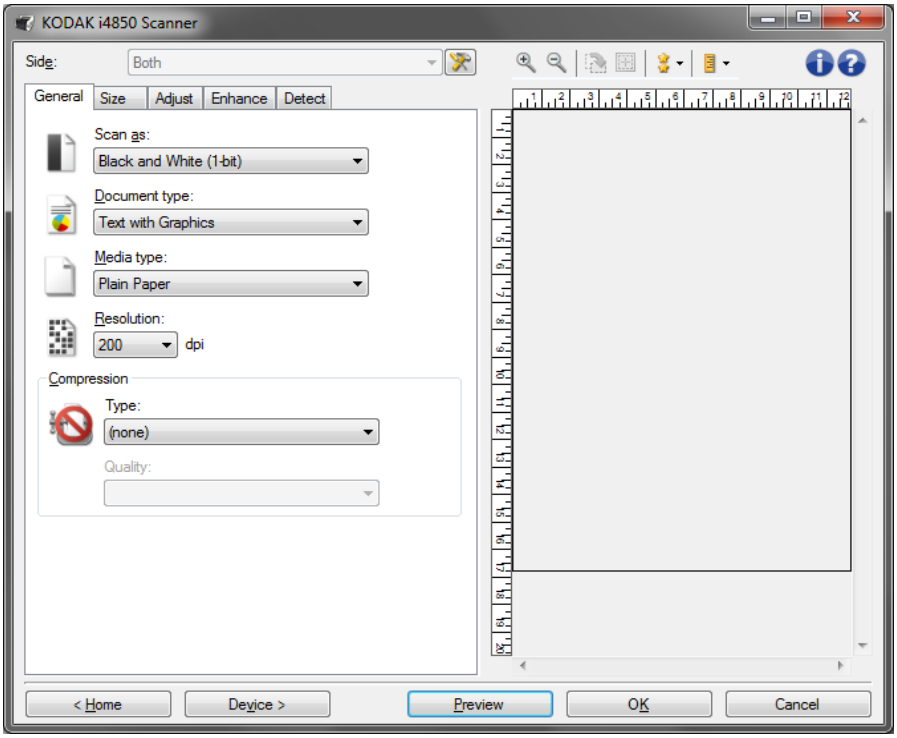


ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには、[一般]、[サイズ]、[調整]（カラー/グレースケールと白黒）、[拡張機能]、および［検知］の各タブがあります。

読取り面 — 設定する読取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。



注：*[読取り面]* オプションは、詳細設定が［詳細］タブで選択された場合のみ利用できます。

詳細イメージセットアップ：［詳細］タブを表示します。

［ツールバー］ボタン

	**ズームイン**：プレビューエリアに現在表示されているイメージを拡大します。
	**ズームアウト**：プレビューエリアに現在表示されているイメージを縮小します。
	**アウトラインを回転**：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。
	**アウトラインを中央に配置**：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。
	**プレビューの品質**：スキャン画像の品質を選択します。 • **標準**：イメージを低解像度で表示します。 • **高**：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、［プレビュー］ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。 注：原稿の内容に応じて、イメージが実際のように表示されるよう、拡大表示する必要がある場合があります。
	**単位**：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューエリアとサイズ関連オプションが含まれます。［単位］オプションは、**［インチ］**、**［センチメートル］**、**［ピクセル］**が使用できます。

プレビューエリア

プレビューエリアに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このエリアにイメージが表示されます。

アウトライン — **［原稿：マニュアル指定］**または **［イメージ：ドキュメントの一部］**を［サイズ］タブから選択すると、現在の［アウトライン］選択項目が表示されます。アウトラインの位置がプレビューイメージと合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。



ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス —［デバイス設定］ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、プレビューエリアにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK /スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションに対して引き続き有効です。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



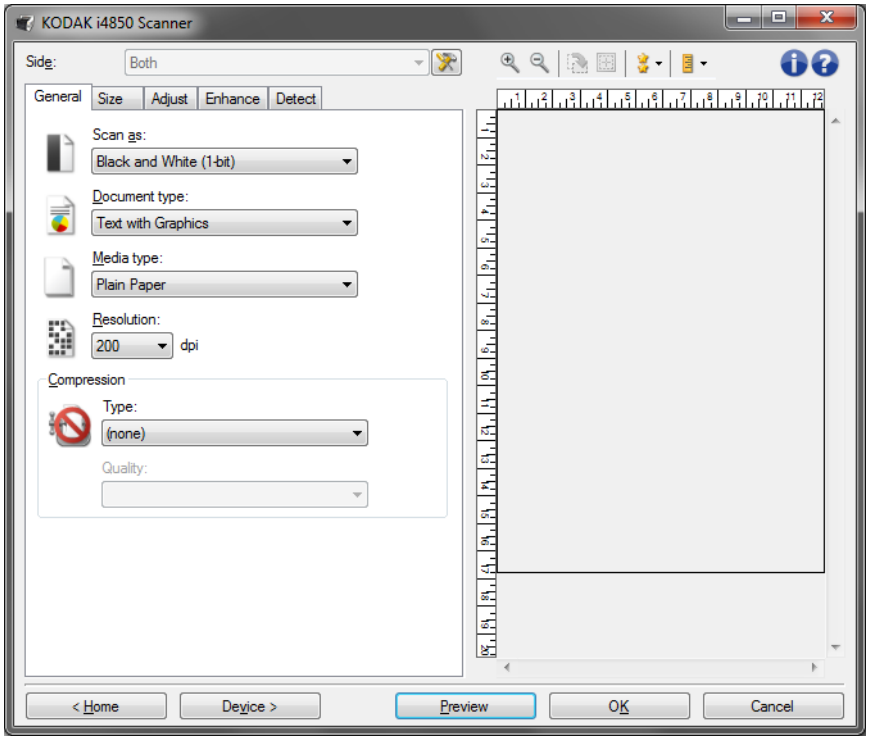
バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。バージョン情報のダイアログボックスでは、最新ドライバのアップデートをダウンロードするコダックアラリスの Web サイトへのリンクも表示します。



ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン形式 — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー（24 ビット）**：カラーイメージを生成します。
- **グレースケール（8 ビット）**：グレースケールイメージを生成します。
- **白黒（1ビット）**：白黒イメージを生成します。

  注：*[スキャン方法]* オプションは、**[読取り面あたりのイメージ数：1]** が［詳細］タブで選択されている場合にのみ使用できます。

ドキュメントのタイプ — ドキュメントの内容のタイプを選択します。

- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト**：文字原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文書と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

書類のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌**です。

解像度 — 解像度 (dp) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、100、150、200、240、250、300、400、500、600 dpi に設定できます。

圧縮 — イメージのサイズを縮小できます。

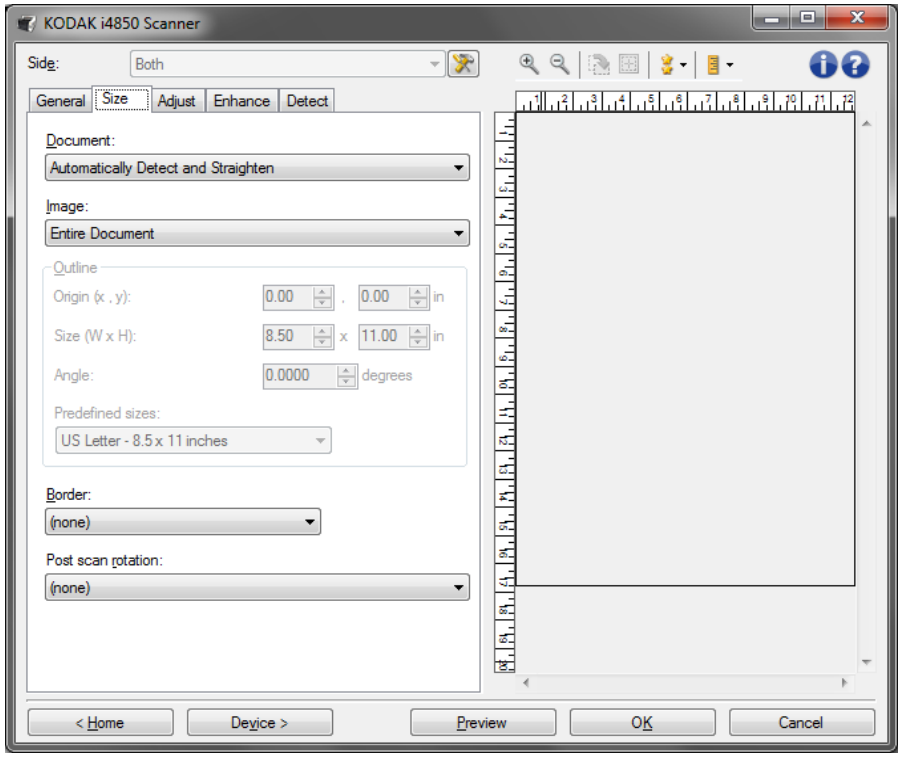
- **タイプ**：イメージを様々な形式でスキャンすることを選択できます。

  注：**グループ-4** オプションは、*[スキャン方法：白黒（1ビット）]* を選択した場合のみ使用できます。

  - **（なし）**：圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
  - **グループ-4**：白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
  - **JPEG**：JPEG 技術を使って、カラー／グレースケールイメージを圧縮します。

- **品質** — JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。
  - **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
  - **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
  - **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
  - **最高**：小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
  - **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

[サイズ] タブ



原稿 —スキャナーから搬送中の原稿をクロッピングする方法を選択します。

- **自動検知/傾き修正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定**：[アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ —ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **原稿全体**：**[原稿：自動検知／傾き補正]**、**[原稿：自動検知]**、または **[原稿：マニュアル選択]** を選択すると、原稿全体を返します。
- **原稿の一部**：[**原稿**：自動検知／傾き補正] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

アウトライン — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューエリアにアウトラインが表示されます。

- **原点 (x , y)**：
  - **［原稿：自動検知/傾き補正］**または**［原稿：写真］**を選択すると、(x) はドキュメントの左端からの距離、(y) はドキュメントの上端からの距離になります。
  - **［原稿：マニュアル指定］**を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。
- **サイズ（幅 x 高さ）**：**［原稿：自動検知 / 傾き補正］**または**［原稿：マニュアル指定］**を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

  注：アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

- **角度**：アウトラインの角度を選択できます。
- **設定サイズ**：一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。**アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、［カスタム］が表示されます。**

注：マウスを使用してプレビューエリアに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠 — イメージ端の処理を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

- **（なし）**
- **追加**：イメージの 4 辺に約 0.25 cm までの黒枠が含まれます。

  注：このオプションは、**［原稿：自動検知］**、または**［原稿：マニュアル指定で使用できます。**

- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠は原稿の端の振れにより生じます。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や歪んで搬送された場合などです。

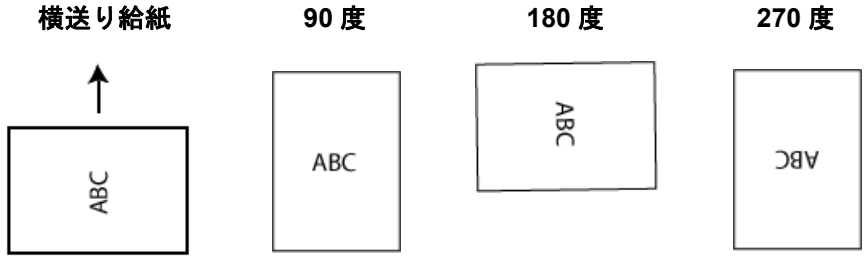
  注：

  - このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
  - このオプションは**［原稿：［自動サイズ検知／傾き補正］**および**［イメージ：原稿全体］**がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転オプション — スキャン後にイメージに適用される角度を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

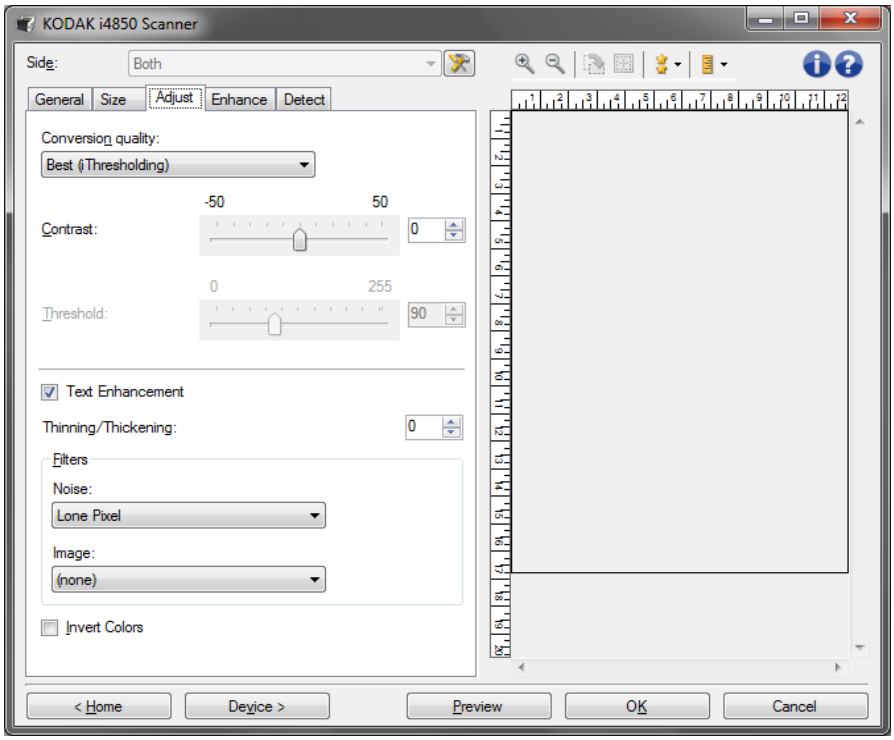
- **（なし）**
- **自動** —スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **90、180、270 度** — 回転する角度を指定します。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



[調整] タブ：白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの *[スキャン形式]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[スキャン形式]* で **[白黒]** を選択した場合に基づきます。



変換時の品質 — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 - Intelligent QC**：**最高**解析に加え、Intelligent QC（品質管理）も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。

  注：このオプションは、*Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェア リミテッドエディションでは利用できません。

- **最高 (iThresholding)**：原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。このオプションでは、画質が異なる混合原稿（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）をスキャンすることができます。
- **通常 (ATP)**：目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、*[最高]* 選択時に目標とする画質の *[コントラスト]* 設定が見つからない場合など、異なる設定の原稿をスキャンする場合にもこのオプションを使用できます。
- **ドラフト（固定）**：ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い原稿に最適です。

コントラスト — イメージの暗いエリアと明るいエリアの差を増減できます。この設定値を小さくすると、イメージがソフトになり、イメージ内のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルトは 0 です。

注：これは、*［変換時の品質：最高］と［変換時の品質：通常］の場合のみ使用できます。*

スレッショルド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1ビット/ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージが薄くなり、背景ノイズを抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションには、0～255 の値を指定することができます。デフォルトは 90 です。

注：これは、*［変換時の品質：標準］ および［変換の品質：ドラフト］*の場合は使用できません。

テキストエンハンスメント ― 文字が見やすくなるようにスキャナーを設定できます。原稿がほとんど文字で、文字がつながっていない、またはスムーズではない場合にこのオプションをオンにします。フォントサイズおよび / または解像度が十分な大きさ / 高さの場合、このオプションはドットマトリクス印刷の読みやすさを向上し、質の悪い文字を改善します。

注：

- **細線化/太線化**を使用していると、このオプションが小さいフォントには反映されない、または効果が落ちる場合があります。
- フォントサイズが小さすぎる、または解像度が十分な高さではない場合、このオプションで文字を塗りつぶす原因となる場合があります。

細線化/太線化 — 線や文字を細線化または太線化します。この設定値を小さくすると線や文字を細く/小さくします。この設定値を大きくすると線や文字を太く/大きくします。デフォルト値は 0 で、細線化または太線化はオフです。

フィルター

- ***ノイズ***
  - (**なし**：オプションを実行しません。
  - **[孤立ピクセル]**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
  - **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

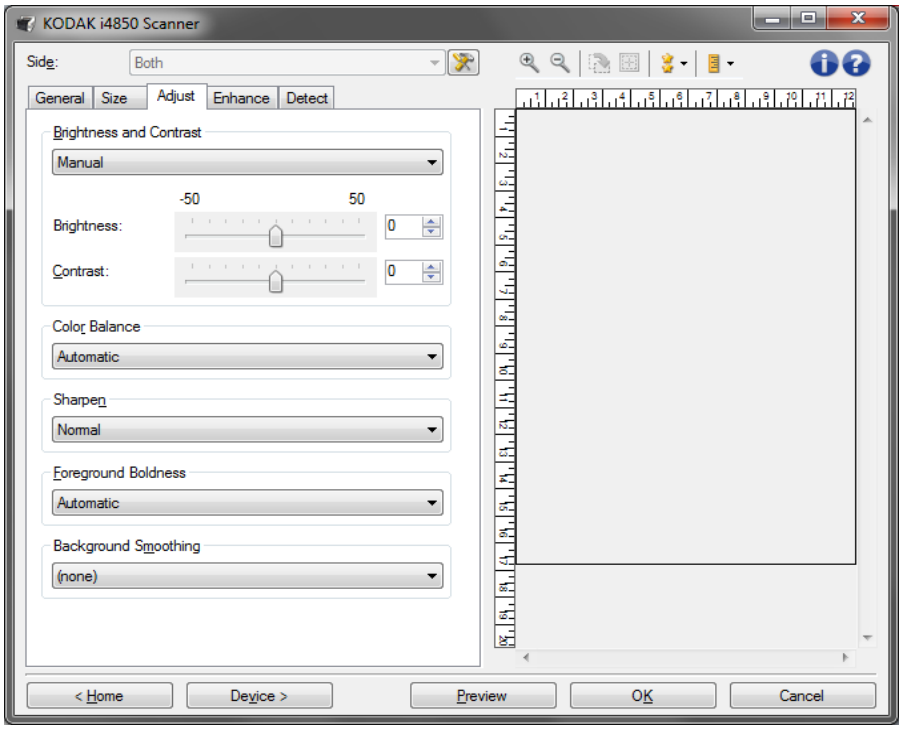
- **イメージ**
  - (**なし**：オプションを実行しません。
  - **ハーフトーン除去**：ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

反転 — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

[調整] タブ：カラー／グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの *[スキャン形式]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[スキャン方法]* で **[カラー]** または **[グレースケール]** を選択した場合に基づきます。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



明度とコントラスト

- **なし**：オプションを実行しません。
- **自動**
- **マニュアル**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **明度** —カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。
  - **コントラスト** — 大きくすると、暗いエリアをより暗く、明るいエリアをより明るくします。値の範囲は、**-50** ～ **50** です。

カラーバランス

- **なし**：オプションを実行しません。
- **自動**
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **[赤]** — カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。
  - **[青]** — カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。
  - **[緑]** — カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。

注：カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス - イメージ内の境界線をより目立たせます。

- **なし**：オプションを実行しません。
- **標準**
- **高**
- **最高**

前景のボールド化 — ドキュメントやフォームの前景（テキスト、行など）をさらに目立つようにする場合、このオプションを使用します。**前景のボールド化** を有効にすると、グレーや中間色が濃くなります。

注：前景のボールド化の写真への使用はお勧めしません。



実行前 **実行後**

- **なし**：オプションを実行しません。
- **自動**：文字や線がすべて太くなります。
- **自動 - 詳細**：このオプションの詳細を調整したい上級者向けです。
  - **強度** - 強弱を調整して前景を調整します。値は、**-10 ~ 10**までの範囲です。

背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上し、ファイルサイズを軽減できます。

注：背景のスムージングの写真への使用はお勧めしません。



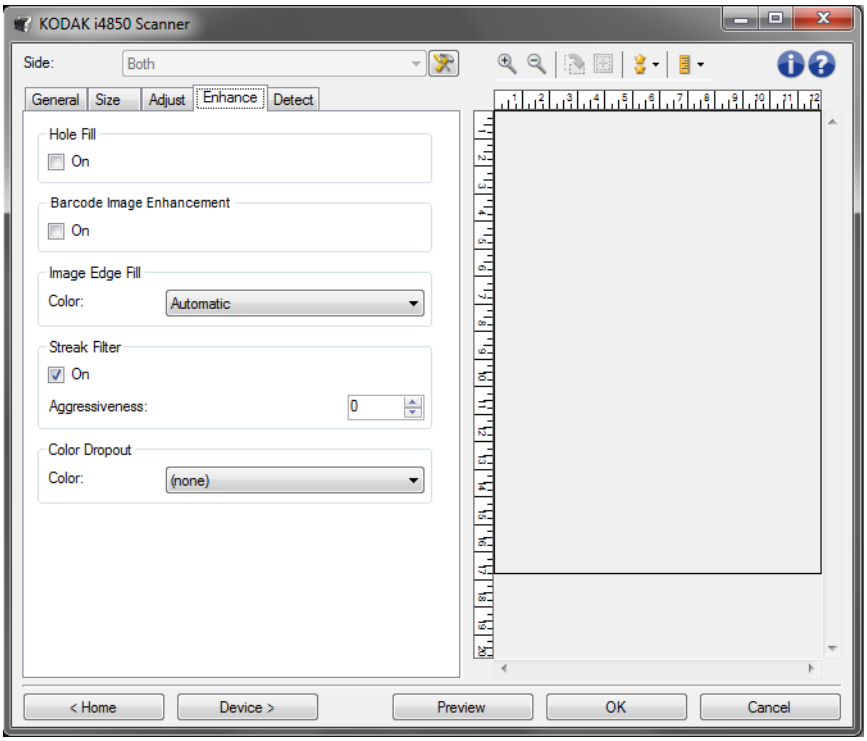
実行前 **実行後**

- (**なし**：オプションを実行しません。
- **自動**：背景色を3色までスムージングします。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい上級者向け
  - **強度** -スムージングの強弱を決定できます。値の範囲は、**[-10]** から［**10**］です。

［拡張機能］タブ

［拡張機能］タブのオプションは、［一般］タブの *［スキャン形式］* の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



パンチ穴除去 — ドキュメントの端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、円、長方形、および不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから文書を取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある）。

- **［オン］**：パンチ穴除去をオンにします。

注：写真をスキャンする場合は**パンチ穴除去**を有効化しないでください。

バーコード画像処理 — アプリケーションでの読取り用のバーコードを最適化するようにスキャナーを設定します。

スキャナーは白黒のイメージの中に 1D と 2D のバーコードを自動的に検出し、スキャン後、容易にバーコードを読取れるように、検出されたバーコードに特殊な画像処理を適用します。コダックアラリスが提供するバーコード読取り機能は、画像処理中に高解像度のグレースケールデータを使用して実行されるため、バーコード画像処理は TWAIN データソースと ISIS ドライバで有効なバーコード読取りに影響しません。

- **［オン］**：バーコードの最適化をオンにします。

イメージの端を埋める — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

- （なし）
- **自動**：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
- **自動 - 破れを含む**：イメージ端埋めに加え、ドキュメントの端の破れも補足されます。

注：**[自動]** および **[自動 - 破れを含む]** は [自動検知/傾き修正] がクロッピングに設定されている場合のみ可能です。

- **[カラー]**：端を埋める色を選択できます。
  - 白
  - 黒
- **フレーム 設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。

注：このオプションは、**[フレーム設定]** がオンになっている場合に 4 辺に適用されます。

- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左／右**：左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：**イメージ端埋め**を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚染物質（例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。

- **[オン]**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度**：縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は、-2～2 です。デフォルト値は 0 です。

[カラードロップアウト] — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除など）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

- **[カラー]**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **（なし）**
  - **マルチ**：濃い色合い（例、黒または濃い青インク）以外をドロップアウトします。
  - **主色**：メインの色をドロップアウトします。
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします**。

- **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
- **青**：**青色をドロップアウトします。**
- **オレンジ色**
- **オレンジ色と赤色**

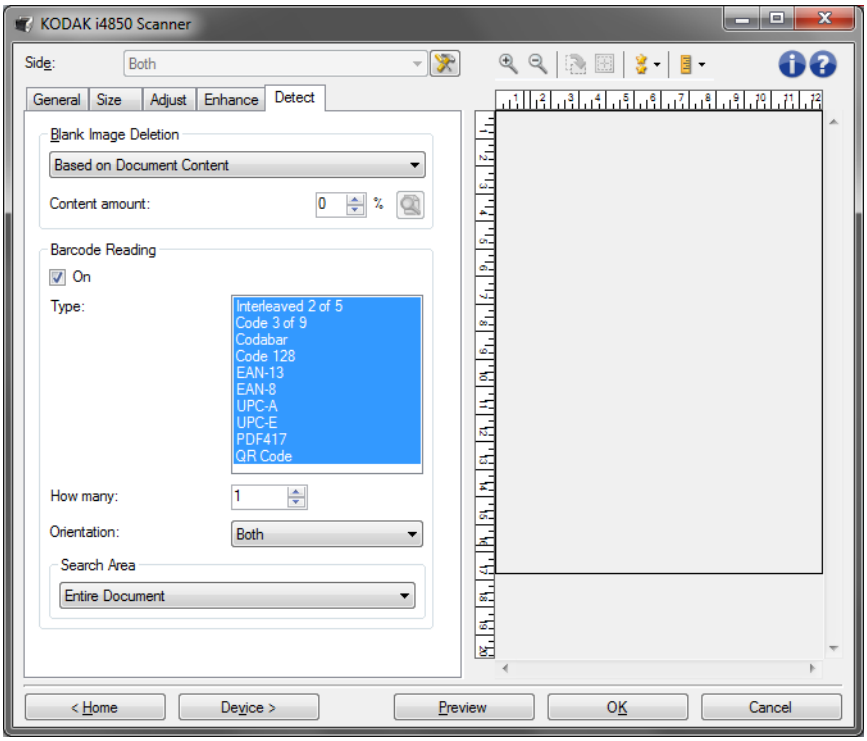
- **強度**：ドロップアウトする色の程度を調整することができます。値の範囲は、**[-10]** から **[10]** です。デフォルト値は 0 です。

注：[カラードロップアウト] オプションは、*[スキャン形式]* で **[白黒]** または **[グレースケール]** が選択されている場合に利用できます。

[検知] タブ

[検知] タブには、以下のオプションがあります。

注：いくつかのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



白紙イメージの削除 —スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **（なし）**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
  - **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。情報量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、0～100% です。

- ：*[文字量基準]* プレビューによってイメージの内容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、内容サイズの調整などを実行します）。

注：このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：（他のすべての設定を適用後に）イメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。
  - **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1～1000 KB（1 KB は 1024 バイト）です。

バーコード 読取り — バーコードのイメージを検索して情報をスキャンアプリケーションに戻すようにスキャナーを設定します。バーコードの左上から右下の順に読取り、その順番でアプリケーションに戻されます。

- **[オン]**：バーコード読取りをオンにします。
- **タイプ**：検索するバーコードのタイプを 1 つまたは複数選択します。
  - Interleaved 2 of 5
  - Code 3 of 9
  - Codabar
  - Code 128
  - EAN-13
  - EAN-8
  - UPC-A
  - UPC-E
  - PDF417
  - QR コード
- **数**：検索するバーコードの数を選択します。選択した数より多くのバーコードがページ上にある場合は、左上から右下まで検索して検出された最初のバーコードを読取ります。
- **方向**：検索するバーコードの方向を選択します。選択内容は、**横**、**縦**、**両方**です。

  注：これは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。

- **検索エリア**：イメージの検索エリアを選択します。
  - **ドキュメント全体**
  - **ドキュメントの一部**
    - **原点 (x , y)**：(x) はイメージの左端からの距離、(y) はイメージの上端からの距離になります。
    - **サイズ（幅 x 高さ）**：検索エリアの幅と高さを設定します。

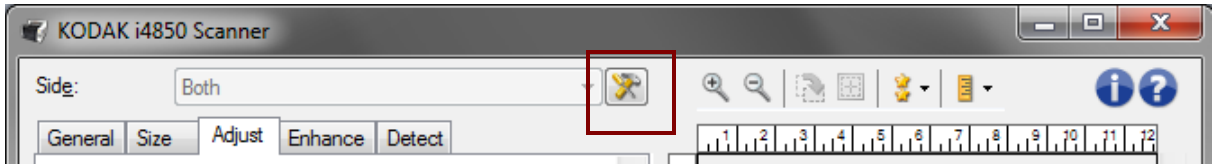
    注：

    - これらは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。
    - **[ドキュメントの一部]** が選択されている場合は、*左上* から *右下* のバーコード読取り規則が選択した対象領域に適用されます。
    - **[イメージ結合]** が選択されている場合は、表面イメージのバーコード設定が結合された表面および裏面イメージに適用されます。

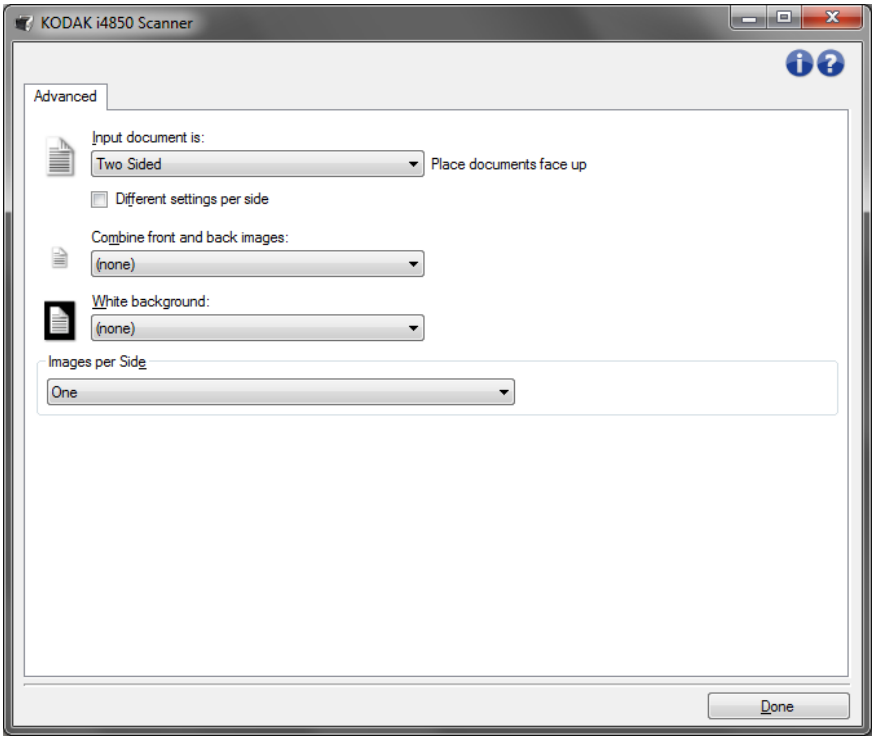
詳細イメージセットアップ

[詳細] タブ

[イメージの詳細設定] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、*[読取り面]* ドロップダウンボックスの隣にあります。

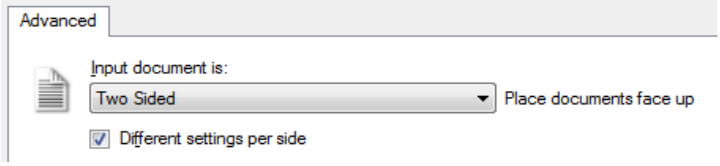


[詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。

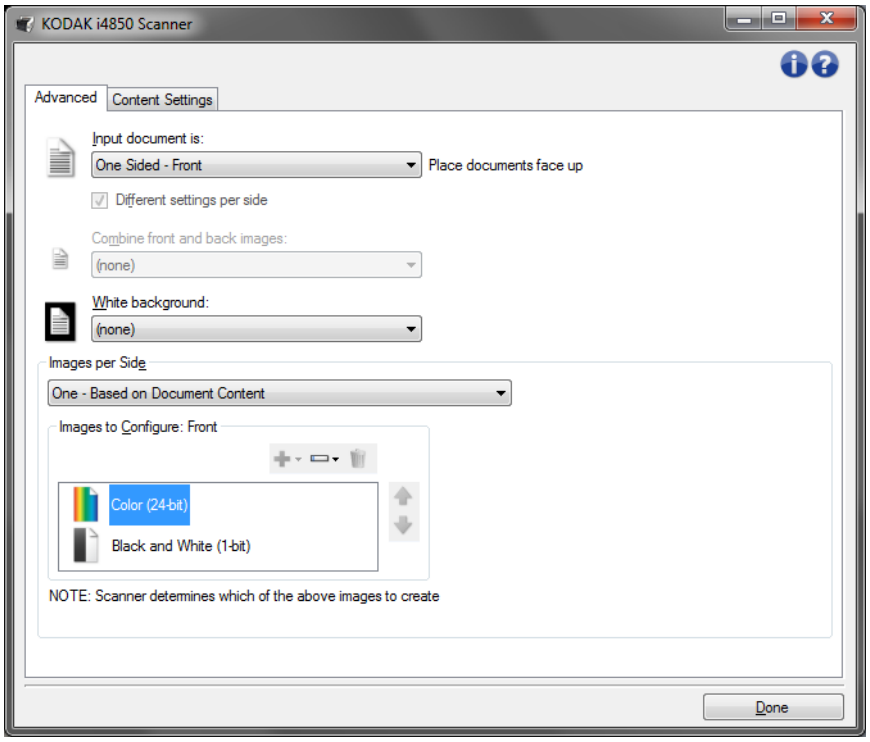


入力ドキュメントのタイプ — 設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、または [片面 - 裏] を選択します。

読取り面ごとに設定を変える — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿のそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず **[入力ドキュメントのタイプ]** ドロップダウンリストから *[両面]* オプションを選択し、次に *[読取り面ごとに設定を変える]* のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある [*読取り面*] オプションが有効になり、読取り面ごとに異なる設定を選択することができます。**[読取り面ごとに設定を変える]** を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象原稿の表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、*[読取り面]* オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。



表面と裏面のイメージを結合 — 表面と裏面の各イメージを 1 つにするために使用します。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を 1 つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

- **[表面を上]**：イメージ内で表面を裏面の上に配置します。
- **[表面を下]**：イメージ内で表面を裏面の下に配置します。
- **[表面を左]**：イメージ内で表面を裏面の左に配置します。
- **[表面を右]**：イメージ内で表面を裏面の右に配置します。

注：

- このオプションが使用できるのは、**[入力ドキュメントのタイプ]** が *[両面]* に設定されている場合、**[読取り面ごとに設定を変更]** が選択されていない場合、**[読取り面あたりのイメージ数]** が *[1]* に設定されている場合、また、スキャンが *ドキュメントフィーダ*から実行された場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。
- このオプションが有効の場合、スキャナーの読取り速度は減少します。速度の減少はホスト PC の機能に影響します。

[ホワイトバックグラウンド] — 原稿の一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- **（なし）**：表面と裏面にブラックバックグラウンドを使用します。
- **両面**：表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。
- **表面のみ**：**[入力ドキュメント]** が *[片面 - 表]* に設定されている場合のみ使用できます。
- **裏面のみ**：**[入力ドキュメント]** が *[片面 - 裏]* に設定されている場合のみ使用できます。

以下は、ホワイトバックグラウンドが役立つ場合の例です。

- 長方形以外のドキュメントをスキャンするときに、最終イメージでは、ドキュメントの外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷で軽量または薄い紙をスキャンするときに、ドキュメントにブラックバックグラウンドがにじんで最終イメージに表示されないようにする必要がある場合。

読取り面あたりのイメージ数 — イメージ処理する選択項目に基づいて、読取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1**：1 つのイメージが作成されます。
- **1 - 自動カラー検知**：ドキュメントがカラー/グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。
- **1 - カラーパッチ機能**：トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー / グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。
- **マルチ**：複数イメージが作成されます。

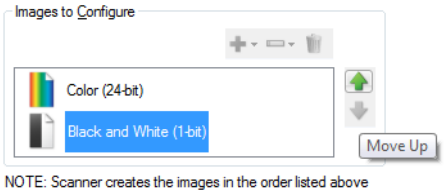
注：**[読取り面あたりのイメージ数]** オプションから *[1 - 自動カラー検知]* を選択すると、[原稿内容の設定] タブが表示されます。

設定するイメージ — 設定する電子イメージを示します。

注：**[読取り面あたりのイメージ数]** オプションから *[1]* 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- *例1：書類の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え*
- *例2：書類の各面に対して複数イメージを作成*
- *例3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用*

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で変更します。



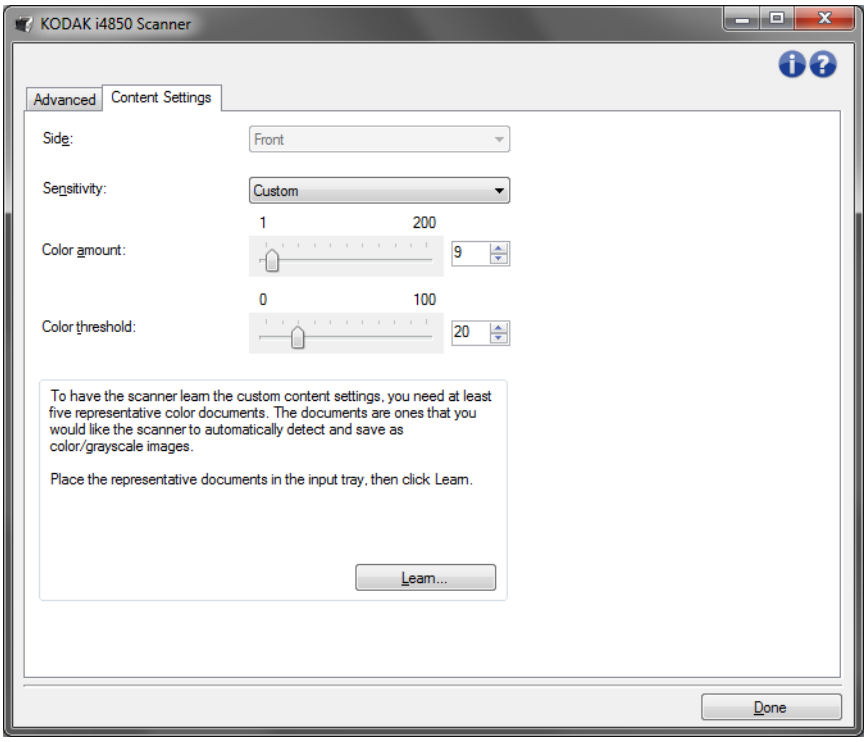
[ツールバー] ボタン：

	**追加**：設定リストの一番下にイメージを追加します。
	変更：現在選択されているイメージの種類を変更します。
	**削除**：選択したイメージの種類を削除します。

完了 -［イメージ設定］ウィンドウに戻ります。

[書類タイプの設定] タブ

[書類タイプの設定] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できます。



読取り面 — [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで **[読取り面ごとに設定を変える]** が選択されている場合のみ使用できます。

感度

- **低**：カラー/グレースケールイメージとして保存するときに、色の量が微量な原稿の場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、ハイライトされた文字や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー/グレースケールイメージとして保存する前に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー/グレースケールイメージとして保存する前に、[中] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。中～大サイズのカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の写真を正しくスキャンするには、*[カラーしきい値]* や *[色量]* の値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：マニュアルで *[色量]* や *[カラースレッショルド]* の値を調整できます。

  注：[感度] の値を設定する場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。どのオプションでも望んでいた結果とならない場合は、**[カスタム]** を選択して [色量] や [カラーしきい値] を手動で調整してください。**[カスタム]** を選択した場合、*[自動設定]* モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨の設定値を算出できます。

色量 — 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。*[色量]* の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効な値は **1～200** です。

カラースレッショルド — 色量の算出時に特定の色量を決定する色のしきい値、または彩度（水色と紺色の対比など）。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効な値は **0～100** です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される *[色量]* を決定します。

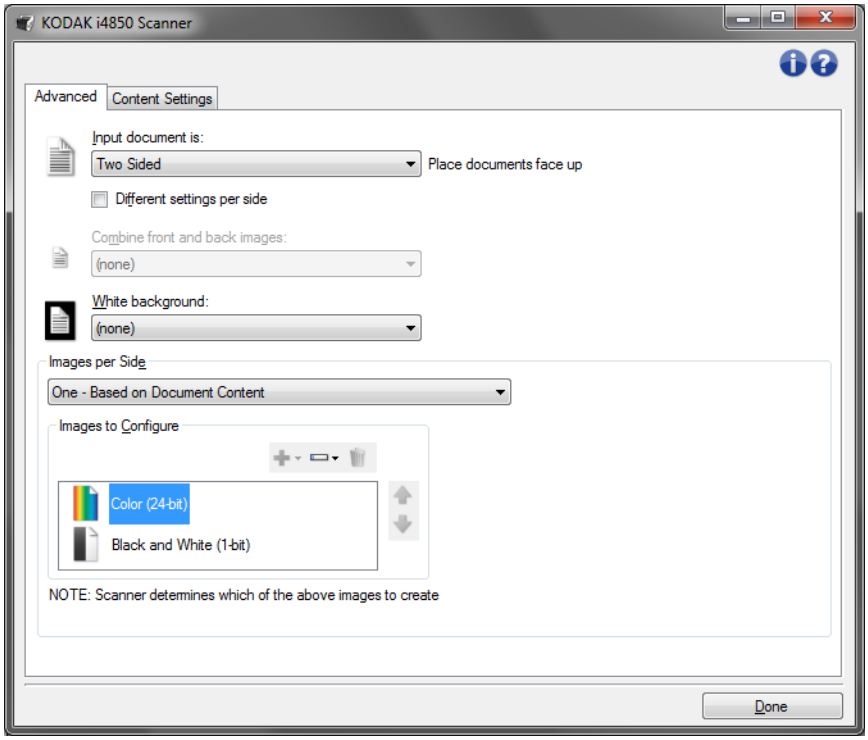
注：[色量] と [カラースレッショルド] のスライダーは自動的に更新されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、*[カラー スレッショルド]* の値をマニュアルで調整してください。

例1：原稿の内容に基づくカラー／グレースケールまたは白黒イメージの作成

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

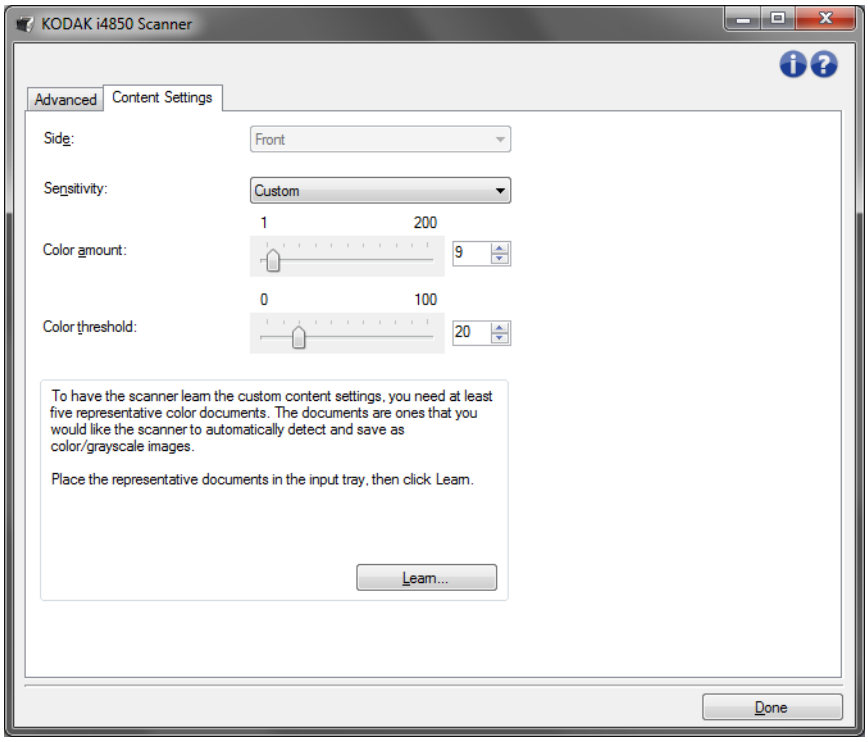
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の［**設定のショートカット**］を選択します。
2. ［**設定**］を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの［**詳細 イメージセットアップ**］アイコンを選択すると、［詳細］タブが表示されます。
4. ［**入力ドキュメントのタイプ**］から［**両面**］を選択します。
5. ［**読取り面あたりのイメージ数：1 - 色量基準**］を選択します。

   注：［詳細］タブに *［設定するイメージ］* エリアが表示され、［カラー］、［白黒］イメージ項目が 選択できます。［原稿内容の設定］タブも表示されます。



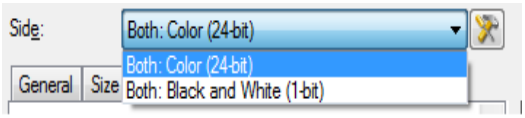
6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
   - *［カラー（24ビット）］* を選択します。
   - ［**変更**］を選択してオプションのリストを表示します。
   - ［**グレースケール**］を選択します。

7. **[原稿内容の設定]** タブに移動します。



8. **[感度]** オプションを選択します。
9. **[完了]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[読取り面]* オプションに、**[両面：カラー（24ビット）]**、および **[両面：白黒（1ビット）]** があります。



10. **読取り面から［両面：カラー（24ビット）］** を選択します。

    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. **読取り面から［両面：白黒（1ビット）］** では利用できません。

    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

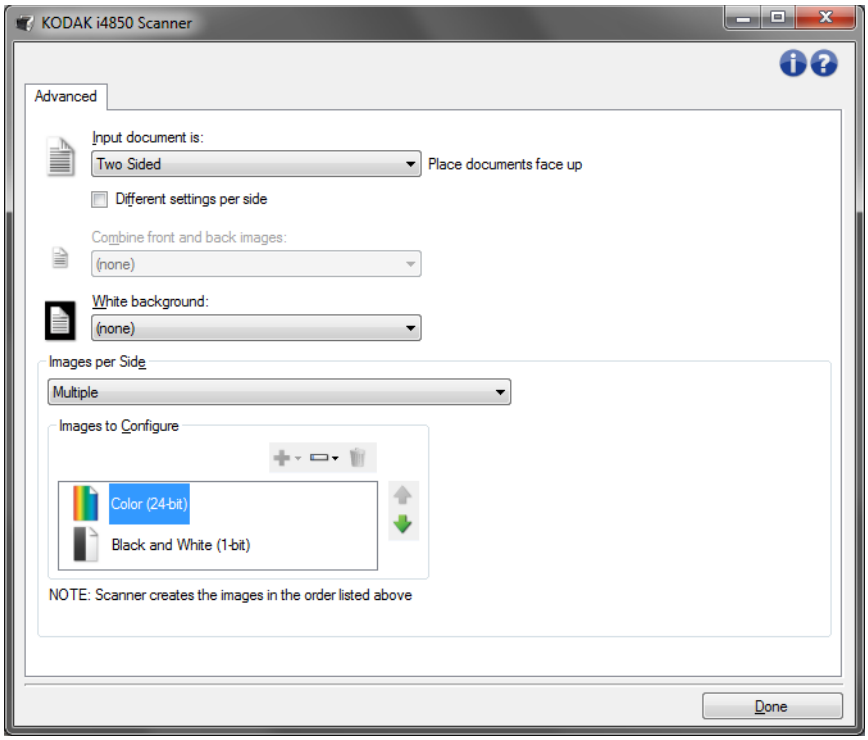
12. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例2:書類の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

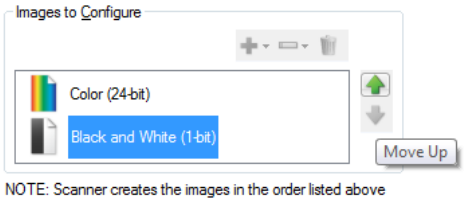
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細 イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
4. **[入力ドキュメントのタイプ] から [両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数 : [マルチ]** を選択します。

   注 : [詳細] タブに *[設定するイメージ]* エリアが表示され、[カラー]、[白黒] イメージ項目が 選択できます。



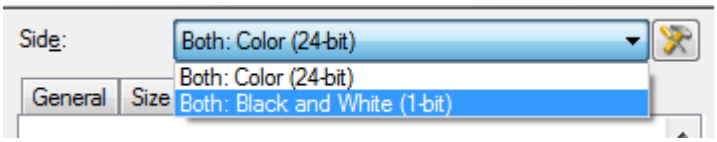
6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
   - *[カラー (24ビット)]* を選択します。
   - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
   - **[グレースケール]** を選択します。

7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー / グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、次の手順に従います。
   - *[白黒（1ビット）]* を選択していることを確認します。
   - **[上に移動]** を選択して、白黒イメージをリストの上にセットします。



8. **[完了]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[読取り面]* オプションに、**[両面：カラー（24ビット）]**、および［**両面：白黒（1ビット）**］があります。



9. **読取り面から［両面：カラー（24ビット）］** を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. **読取り面から［両面：白黒（1ビット）］** では利用できません。

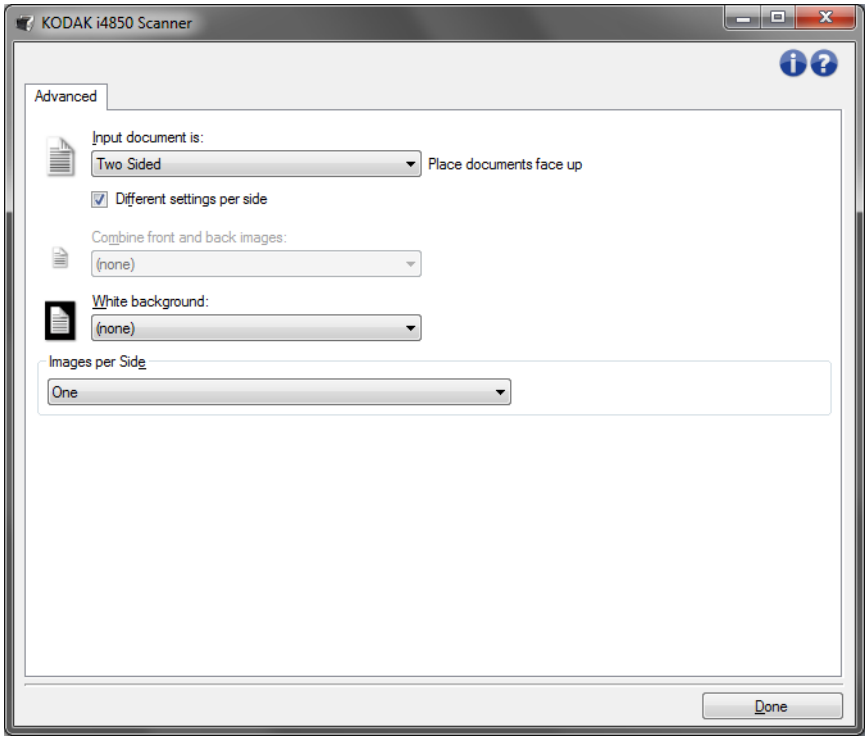
    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例3:書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用

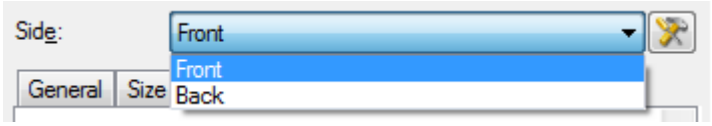
この例では、表面カラー、裏面白黒で原稿をスキャンする設定を行います。

1. ［詳細］タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
   - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の［**設定のショートカット**］を選択します。
   - ［**設定**］を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
   - イメージ設定ウィンドウの［**詳細 イメージセットアップ**］アイコンを選択すると、［詳細］タブが表示されます。
2. ［**入力ドキュメントのタイプ**］から［**両面**］を選択します。
3. ［**読取り面ごとに設定を変更**］オプションを選択します。
4. ［**読取り面あたりのイメージ数**：**1**］を選択します。



5. ［**完了**］をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*［読取り面］*オプションに、［**表面**］と［**裏面**］の 2 つの項目が表示されます。



6. **読取り面から［表］**を選択します。
7. ［一般］タブの［**スキャン形式**］オプションで、*［カラー (24ビット)］*を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、表面の設定項目を調整します。

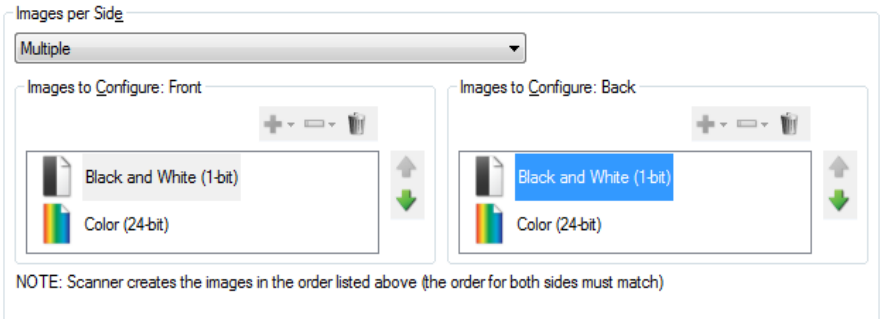
8. **読取り面から［裏］**を選択します。

9. ［一般］タブの［**スキャン形式**］オプションで、*［白黒（1 bit）］*を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

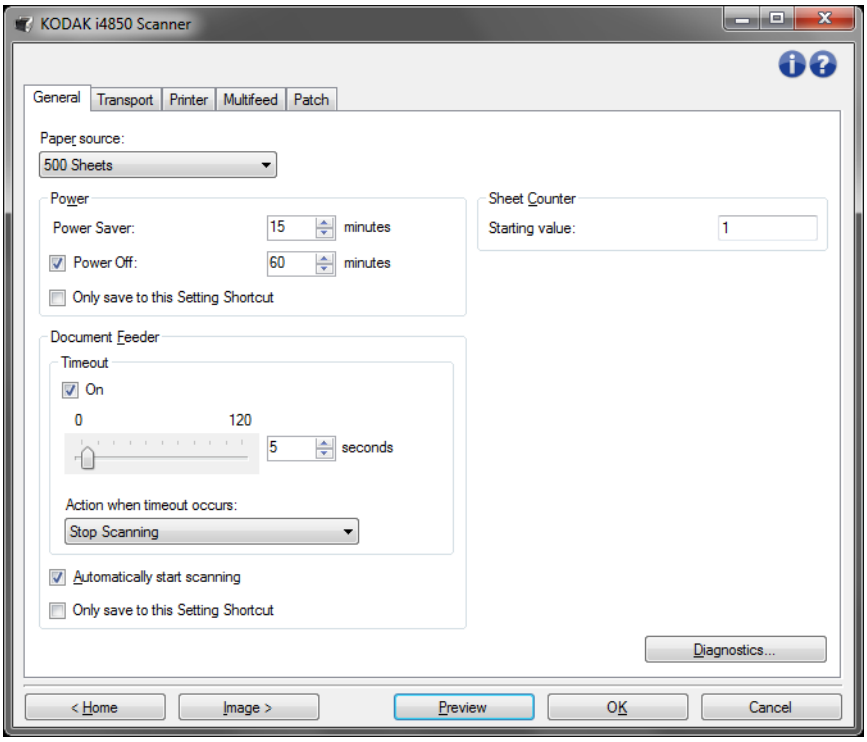
10. 設定が完了したら、**［ホーム］**を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**［保存］**を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

注：手順 4 で *［読取り面あたりのイメージ数：1］*以外のオプションを選択している場合のみ、2 つの *［設定するイメージ］*オプショングループを使用できます。その場合は、ドキュメントの表裏各面のイメージを個別にセットアップすることができます。



デバイス設定ウィンドウ

利用可能なタブを使用して、スキャナー固有のオプションや診断機能をすべてこのウィンドウから設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された［設定のショートカット］に保存されます。デバイス設定ウィンドウには、［一般］、［トランスポート］、［プリンタ］（プリンタアクセサリがインストールされている場合）、［重送］、［パッチ］タブが含まれます。



ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ —［イメージ設定］ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK /スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが *[OK]* の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションに対して引き続き有効です。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



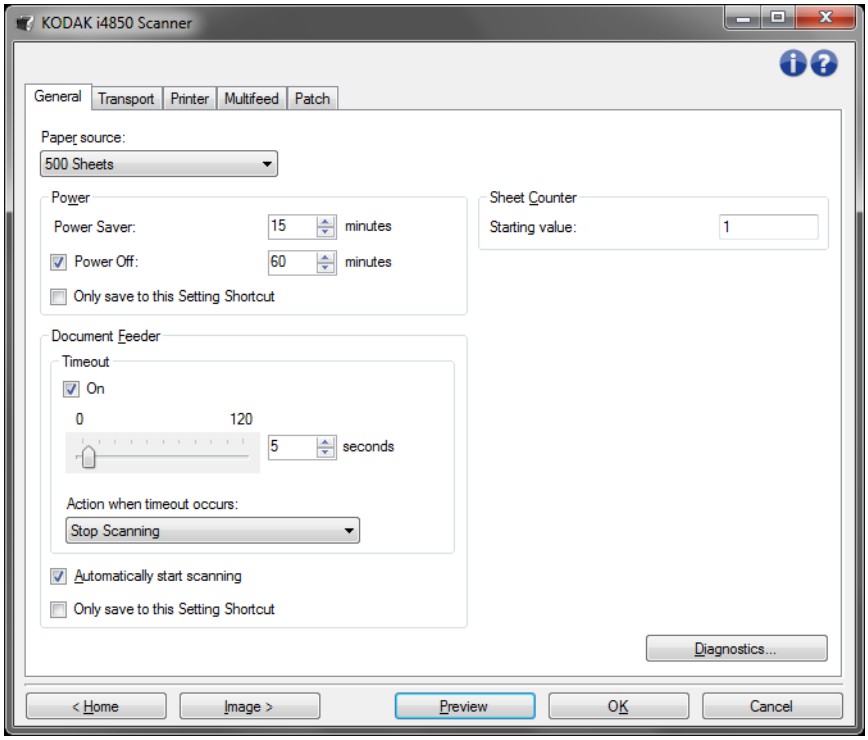
バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。バージョン情報のダイアログボックスでは、最新ドライバのアップデートをダウンロードするコダックアラリスの Web サイトへのリンクも表示します。



ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



給紙方法

- **自動**：最初にドキュメントフィーダに用紙があるか確認します。入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **自動 - 100 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25～100 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **自動 - 250 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100～250 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **自動 - 500 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250～500 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **ドキュメントフィーダ**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンしている場合に推奨されます。
- **100 枚**：このオプションは、入力エレベータから 25～ 100 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **250 枚**：このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。

- **500 枚**：このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注：**[自動]** および **[フラットベッド]** オプションは、スキャンアプリケーションが開始した時に、フラットベッドアクセサリがスキャナーに取り付けられている場合のみ利用できます。

電源

節電モード — スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

電源オフ — 自動的に電源が切れるまで、スキャナーを節電モードにしておく時間（分）を設定できます。

注：省電力設定は、すべての［設定のショートカット］ で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ反映]** オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットに反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィーダに入り、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間（秒）を選択できます。このオプションは、**オフ**にすることもできます。
- **タイムアウト時のアクション**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定できます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
  - **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。オペレータコントロールパネルの **[開始/一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
  - **用紙を待機**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。原稿が入力エレベータに追加されると、スキャンが自動的に再開されます。

スキャンの自動開始 — このオプションが選択されると、スキャン処理が開始される前に、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、用紙が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダタイムアウトにより指定された時間待機します。

注：ドキュメントフィーダ設定は、すべての［設定のショートカット］で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ反映]** オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットに反映されます。

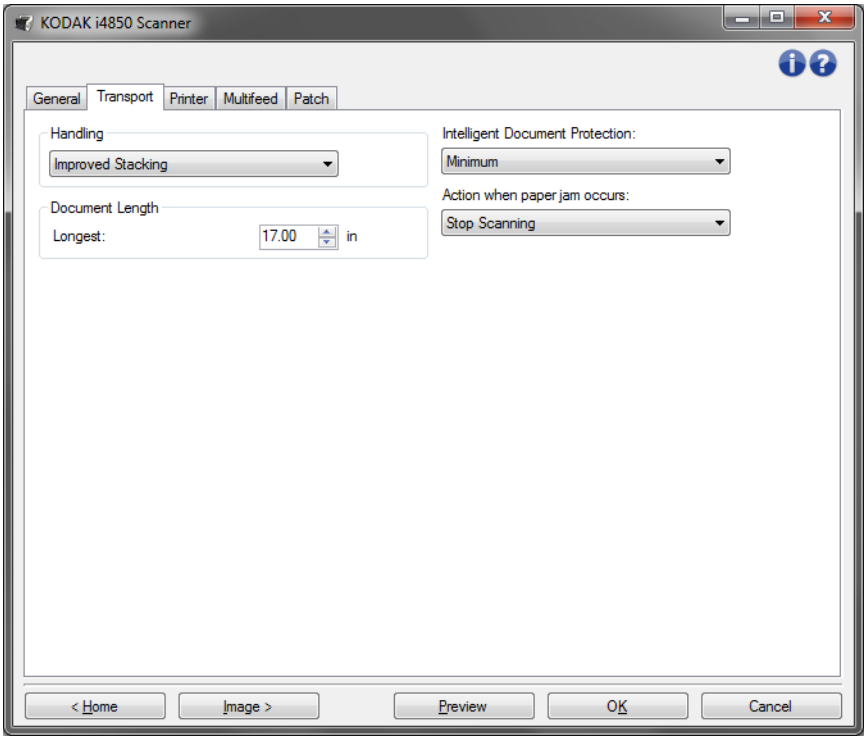
用紙枚数カウンタ — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーで順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

注：これを変更すると、デバイス - ［プリンタ］タブの **［カウンタ］** オプションに影響が及びます。

診断 - ［診断］タブを表示します。

デバイス - ［トランスポート］タブ

［トランスポート］タブで、スキャナーのトランスポートエリアによる原稿の管理方法に対するオプションを設定できます。



排紙方法 — スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これは、原稿をスキャナーに送る方法と原稿を出力トレイにセットする方法に影響します。

- **標準**：追加の処理は行われません。すべての原稿のサイズが同様である場合に最適です。
- **サイズ 混在**：サイズが混在するドキュメントセット用の出力トレイで、ドキュメントを積み重ねる／並べる方法を制御するのに役立ちます。これは、大多数のサイズ混在原稿セットに使用できます。
- **サイズ混在**：**ベスト**：ドキュメントセットのサイズにかなり幅がある場合、このオプションにより、出力トレイ内でドキュメントを積み重ねる／並べるための最適な制御が提供されます。

原稿長

- **最長** — 原稿セット内で最長の原稿の長さを示す値を選択します。

  注：

  - この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。*イメージサイズ - アウトライン；プリンタ - リードエッジからのオフセット；マルチフィード - 長さによる探知*。
  - 長尺ドキュメントはすべての設定の組み合わせをサポートしません（例：解像度、カラー、グレースケールなど）。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
  - 長尺ドキュメントの場合には、スキャナーの処理能力が減少することがあります。

インテリジェントプロテクション — スキャナーに正しく入っていないドキュメントを、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、原稿の準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままの原稿など）。

- **（なし）**
- **最小**：ドキュメントを必要以上に検出することによりスキャナーがあまりにも頻繁に停止する場合、このオプションを選択します。

  注：検出しないと、原稿はさらに損傷する場合があります。

- **標準**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことの双方でバランスを取ります。
- **最大**：ドキュメントの損傷を極力防ぐ場合、このオプションを選択します。

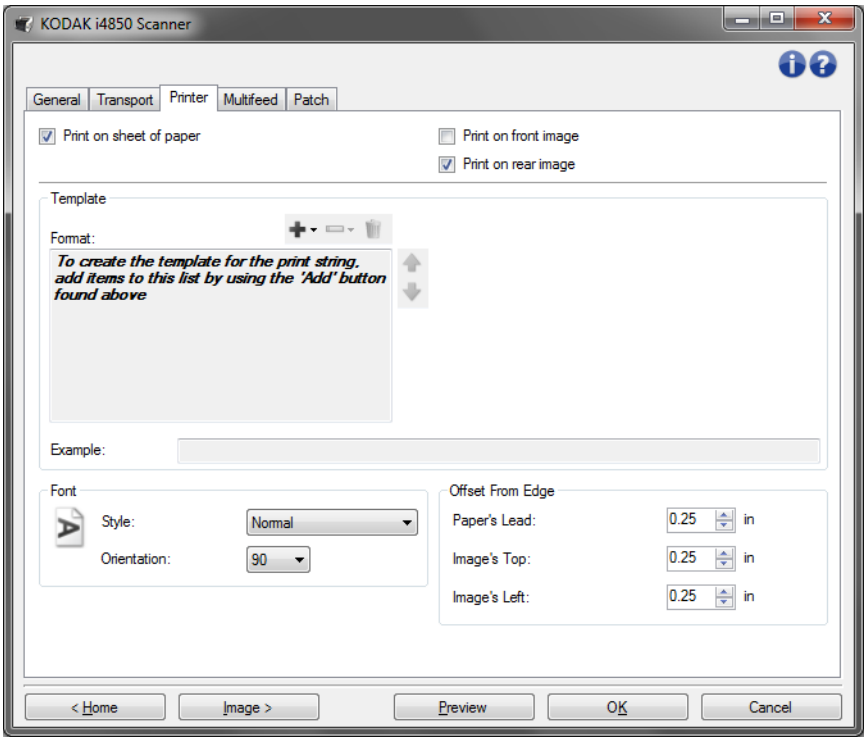
  注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

紙詰まりが発生した場合の動作 — スキャナーが紙詰まりを検出した場合に何をするか選択できます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン一時停止**：ジャムリカバリオプションを自動化する場合は、**[スキャンの一時停止]** を選択するとスキャンが停止する原因となりますが、スキャンアプリケーションは追加のイメージを待機します（フィーダを停止します）。このオプションにより、ドキュメントの紙詰まりからより速く回復でき、ユーザーの効率が向上されます。搬送路の用紙を取り除いたら、オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押して、スキャンを再開できます。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。

デバイス - [プリンタ] タブ

拡張プリンタには、搬送方向に対し平行に印字することができる機能があり、英数字、日時、原稿カウント、カスタムメッセージをサポートしています。印刷情報は原稿ごとにすべてヘッダレコードに取り込まれます。用紙に印刷、デジタルイメージに印刷、またはその両方を選択できます。用紙に印刷する場合：



用紙に印刷（*物理印刷*）— 物理用紙に対する印刷をオンにします。

デジタルイメージにスタンピングする場合：

表面イメージに印刷（*デジタル印刷*）— すべての表面イメージに対するデジタル印刷をオンにします。

裏面イメージに印刷（*デジタル印刷*）— すべての裏面イメージに対するデジタル印刷をオンにします。

注：

- デジタル印刷は、クロッピングおよび回転*後*にイメージに適用されます。そのため、**[用紙に印刷]** と **[表面（または裏面）イメージに印刷]** の両方が有効の場合、ドキュメントの異なる端に印刷される場合があります。
- デジタル印刷は、**[イメージ結合]** の前に適用されるため、**[裏面イメージに印刷]** が有効の場合、結合されたイメージに 2 回デジタル印刷されます。

テンプレート：フォーマット — 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

[ツールバー] ボタン

	**追加**：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を 1 つ選択すると、その項目は［形式］リストの最後に表示されます。
	変更：［フォーマット］リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目のいずれかと変更できます。
	**削除**：現在選択されている項目を［フォーマット］リストから削除できます。

注：印字文字列を構成する場合、40 文字の制限に適合する項目だけを *[追加]* および *[変更]* リストから使用できます。

項目 — 項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて［フォーマット］リスト**の右側に表示されます。**

- **カウンタ**：この値は、スキャンされる用紙ごとに順次に増分され、イメージヘッダ内に戻されます。
  - **開始値**：スキャンされる次の用紙に対する番号を設定できます。

    注：この値を変更すると、［デバイス - 一般］タブの **[シートカウンタ]** オプションに影響が及びます。

  - **フィールドの桁数**：カウンタの桁数を 1～9 の範囲で設定できます。たとえば印刷文字列が 6 文字しか残っていない場合は、フィールドも 6 文字に制限されます。
  - **ゼロ付き**：幅の値がフィールド幅以下の場合、カウンタの形式を設定できます（例ではフィールド幅が 3、カウンタが 4 です）。次のオプションがあります。
    - ディスプレイ：「004」
    - 非表示：「4」
    - スペースとして表示：「 4」

[インクリメント]、**[リセット]**、**[リセット値]** は *Kodak* i4850 スキャナー専用です。

- **インクリメント**：いつカウンタを増分するか設定できます。
  - すべての用紙
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット**：いつカウンタをリセットするか設定できます。
  - ゼロ
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット値**：カウンタをリセットする場合の値を選択できます。

注：

- i4850 スキャナーのパッチパターンは縦に読まれるため、ページのはじめに 2 インチ必要です。
- **[インクリメント]** オプションを使用すると、すべてのページが印刷され、パッチページの ***後*** のページでカウンターが増分されます。
- **日付**
  - **フォーマット**：
    - MMDDYYYY
    - MMDDYY
    - DDMMYYYY
    - DDMMYY
    - YYYYMMDD
    - YYMMDD
    - DDD（ユリウス暦）
    - YYYYDDD（ユリウス暦）
    - YYDDD（ユリウス暦）
  - **区切り記号**：（例では年/月/日形式です）
    - なし
    - スラッシュ：2010/08/24
    - ハイフン：2010-08-24
    - ピリオド：2010.08.24
    - スペース：2010 08 24
  - **指定の日付**：スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を選択できます。

- **時刻**：
    - HHmm
    - HHmmss
    - HHmmss.xx
    - hhmm
    - hhmmss
    - hhmmss.xx
    - hhmm tt
    - hhmmss tt
    - hhmmss.xx tt

注：

- **HH** は 00 時から 23 時の 24 時間です。**hh** は 01 時から 12 時の 12 時間です。**mm** は 00 分から 59 分です。**ss** は 00 秒から 59 秒です。**xx** は 00 から 99 のカウンタです。**tt** は **AM** または **PM** です。
- **hhmmss.xx** オプションを使用すると、スキャンされる全てのページに固有の日付／時刻スタンプが生成されます。
    - **指定の時刻**：スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を選択できます。
- **スペース**：スペースを追加します。
- **メッセージ**：印字文字列にカスタムテキストを指定できます。（スペースを含めて）最大 40 文字まで指定できます。

    注：日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Versionをインストールして設定されたMSゴシックをフォントに使用する必要があります。これは、www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5_win32/en/ime5_win32.htm.で入手できます。

例 — 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[形式] リストで項目を選択すると、例で該当する部分が強調表示されます。

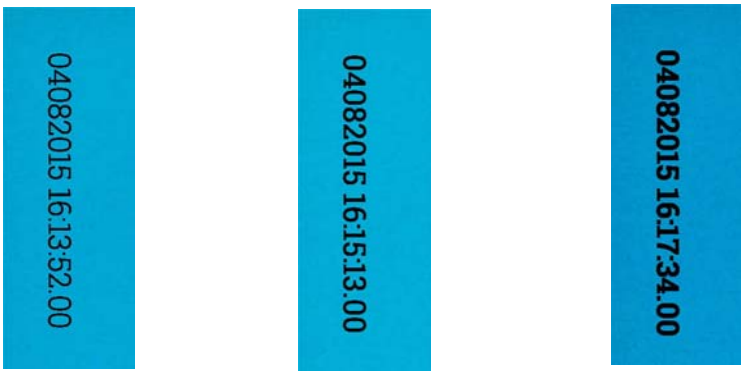
フォント — 情報を印字する方向を選択できます。

- **スタイル**：使用できる文字の書式は、**標準、太字、極太**



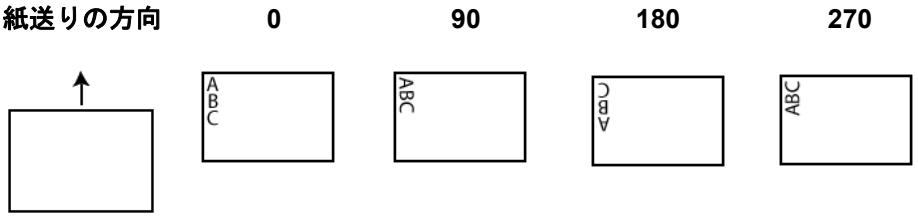
［標準］：90 度回転　　**太字：90 度回転**　　**極太：90 度回転**

- **デジタル印刷の例**



標準：90° **太字：90°** **極太：90°**

- **方向**：文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは次のとおりです。**0、90、180、270**。



先端からのオフセット — 値を選択して、情報が原稿の先端からどれくらい離れて印字されるか決定します。

- **用紙の先端**：原稿の先端からの距離の値を選択します。

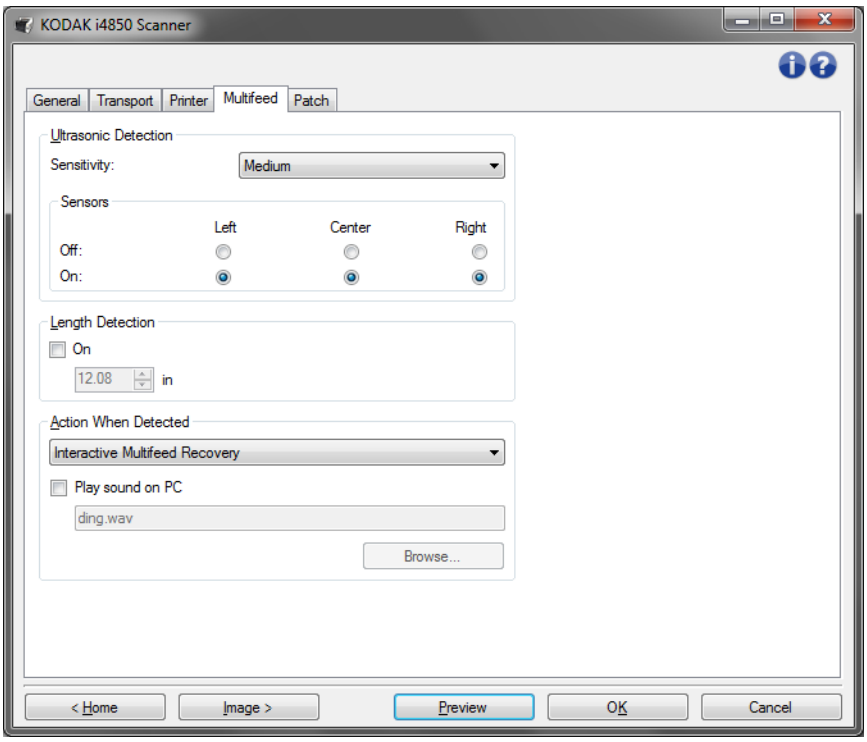
  注：

  - 情報が完全に印字されていなくても、印字はドキュメントの後端から 6.3 mm（1/4 インチ）のところで自動的に停止します。
  - 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。
  - このオプションは、物理用紙に印字する場合のみ使用できます。
- **イメージの上部**：回転後のイメージの上端からの距離の値を選択します。
- **イメージの左側**：回転後のイメージの左端からの距離の値を選択します。

  注：**イメージの上部** および **イメージの左側** オプションは、デジタルでイメージに印字する場合のみ利用できます。

デバイス - [重送検知] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はホチキスで綴じられた原稿、粘や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



超音波検知

感度 — 複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを検知する度合いを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。

- **（なし）**
- **低**：感度が低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、シワがある原稿を重送として認識する可能性が低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m^2 以下のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

  注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送原稿として検知されます。

センサ — 3 つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送書類が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左、中央、右**：このオプションで、どのセンサを有効/無効にするか選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサをオフにできます。

長さによる検知 — ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長い原稿を検知した場合、重送が発生したと判断します。このオプションは**オフ**にできます。

検知時の動作 — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送路に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンを停止し、重送原稿の最後の部分を搬送口に残し、コントロールをスキャンアプリケーションに戻します（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの続行**：スキャナーがスキャンを継続します。重送書類のイメージが生成されます。
- **スキャンの一時停止 - イメージ生成**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送書類のイメージが生成されます。オペレータコントロールパネルの［**開始 / 一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
- **スキャン一時停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしません）が、スキャンアプリケーションは、追加のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿をクリアします。スキャナーの［**開始/一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。

- **スキャンの一時停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンは停止し、重送原稿の最後の部分が搬送口に残りますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿をクリアします。オペレータコントロールパネルの **[開始/一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
- **インタラクティブ マルチフィード リカバリ**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージがコンピュータに表示されます。これらのイメージを承認する、または再スキャンして差し替えることができます。コンピュータで、またはオペレータコントロールパネルを使用して選択できます。イメージをアプリケーションに送信し、**[承認]** を選択してスキャンを再開します。**[再スキャン]** を選択すると、イメージを破棄してスキャンを再開します。**[停止]** を選択して、スキャンを停止できます。

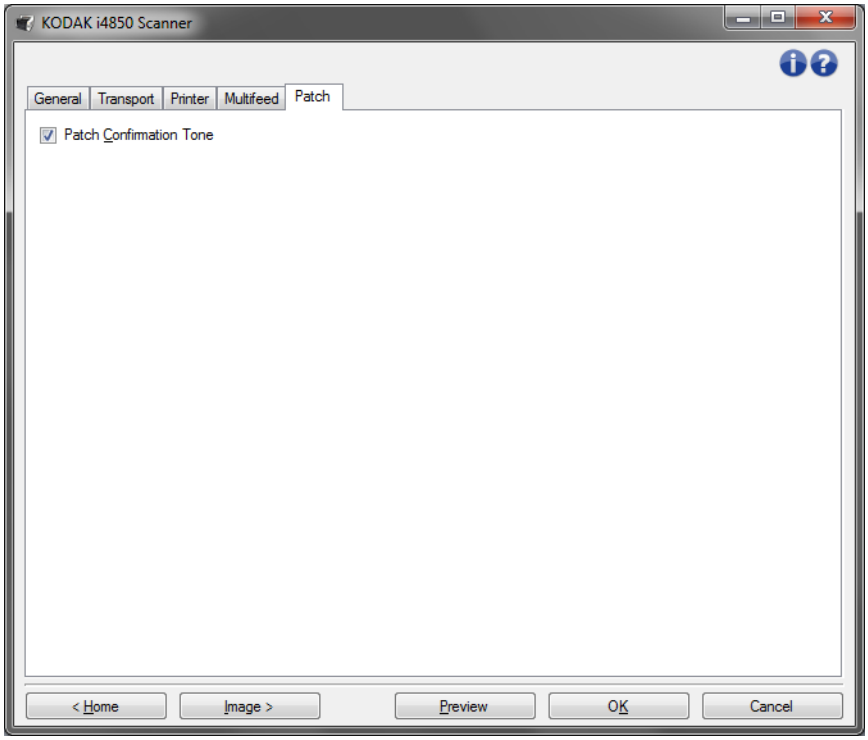
注：重送原稿を入力エレベータにセットしてから、**[再スキャン]** を選択します。

PCの音源を鳴らす — 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[参照]** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択します。

注：PC の音源は、スキャナーの重送検知時と同時に鳴らない場合があります。

デバイス - [パッチ] タブ

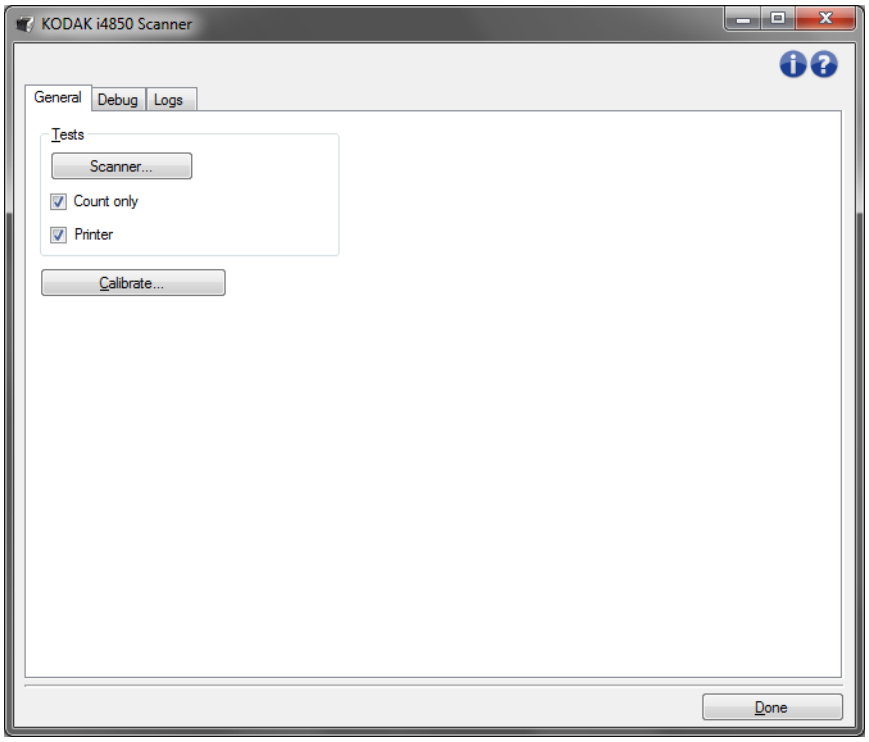
パッチリーダーはあらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、原稿のレベル変更を制御するために設定できます。



パッチ認識トーン — パッチが認識されたことを通知するために認識トーンを使用することができます。

［診断］ウィンドウ

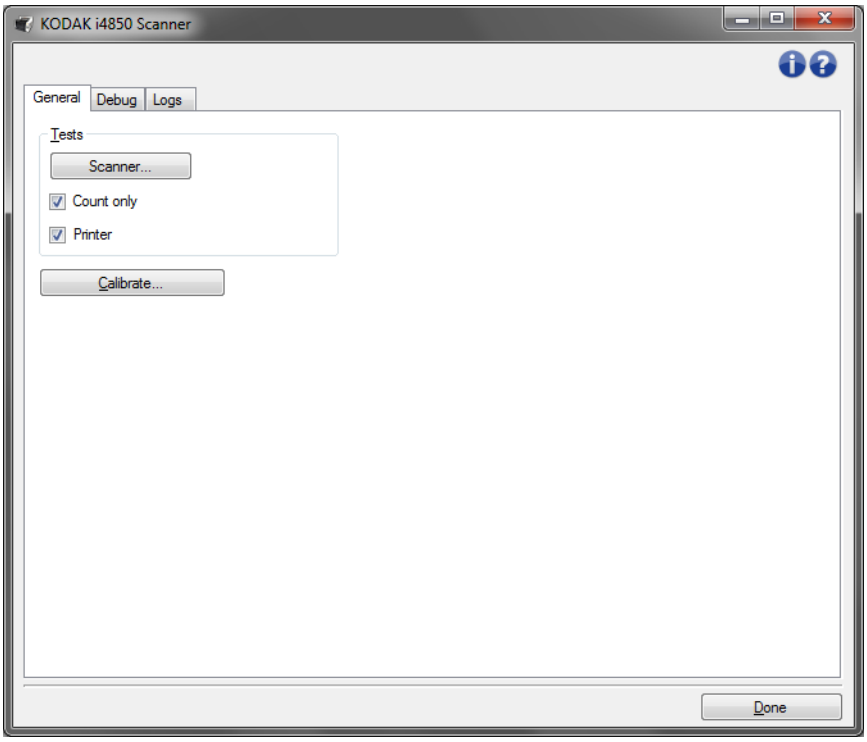
このウィンドウではスキャナーの診断機能を使用できます。［診断］ウィンドウには、［一般］、［デバッグ］、［ログ］のタブがあります。［診断］ウィンドウは、［デバイス設定］ウィンドウの［一般］タブにある［診断］ボタンからアクセスできます。



完了 — ［デバイス設定］ウィンドウに戻ります。

診断 - [一般] タブ

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、キャリブレーションを行います。



テスト

- **スキャナー** — 電源投入時のセルフテストと似ていますが、さらに詳細なテストを行います。このオプションを選択すると、一連のテストが行われ、すべてのスキャナーハードウェアが正常に動作しているかどうかが確認されます。
- **カウントオンリー** — スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。
- **プリンタ** — 拡張プリンタの機能性（すべてのインクジェットが機能しているかなど）をテストします。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。

  注：**カウントオンリー**および**プリンタ**テストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

キャリブレーション — [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。このウィンドウから超音波キャリブレーションを実行できます。

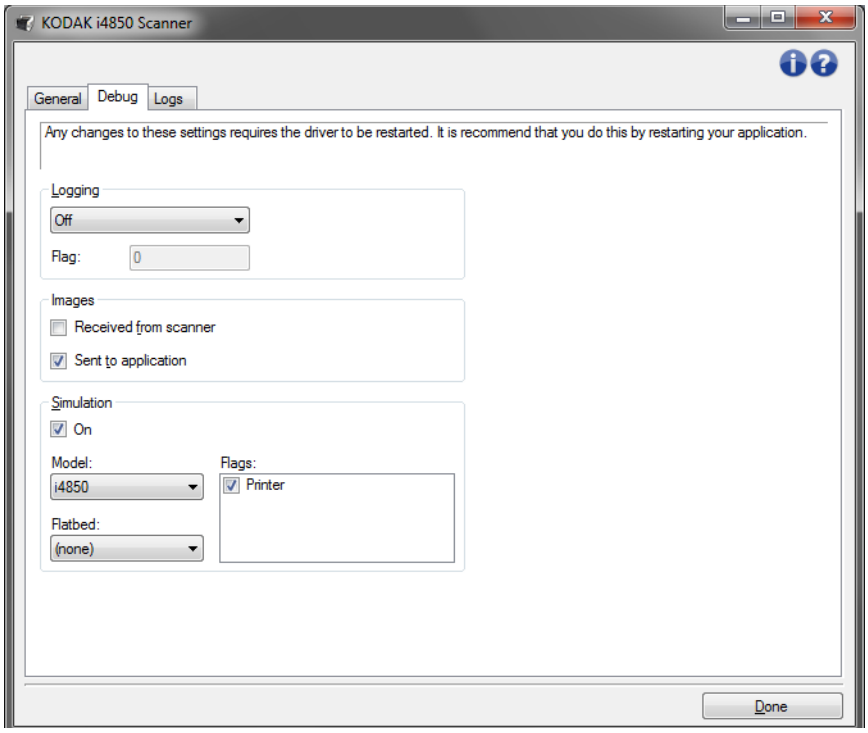
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、またお勧めもしません。サポート担当者の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブで、スキャナーの使用中に発生する問題をサポート担当者が診断できるオプションをオンにできます。サポート担当者からの指示があった場合のみ、このタブの変更を行ってください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブでの変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、**[OFF]**、**[ON]**、**[カスタム]** が用意されています。

イメージ

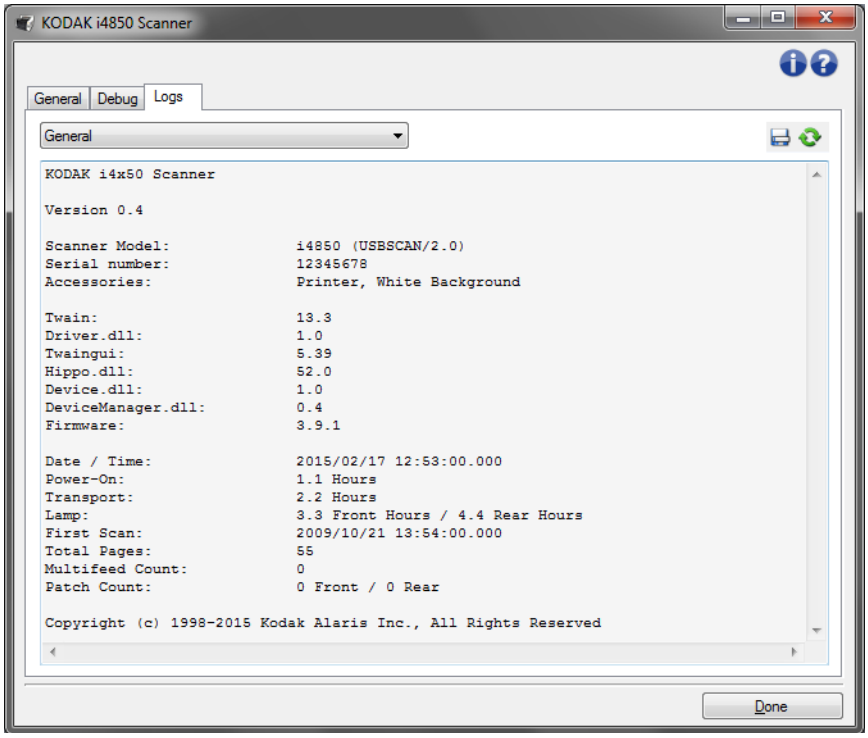
- **スキャナーから受信**：コンピュータがスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションへの送信**：スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

シミュレーション — 実際にスキャナーを使用しないで TWAIN ドライバ／データソースを使用できます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：お使いの TWAINドライバ/データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはサポート担当者のみ消去できます。

[ツールバー] ボタン

名前を付けて保存：サポート担当者が閲覧できるようにすべてのログを保存します。選択すると［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題/理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：OS の［ファイルを開く］ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。

更新：現在表示されているログを更新します。

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。